

上京遺跡

2011年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

上 京 遺 跡

2011 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

歴史都市京都は、平安京建設以来の永く、そして由緒ある歴史を蓄積しており、さらに平安京以前に遡るはるかむかしの、貴重な文化財が今なお多く地下に埋もれています。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、昭和 51 年（1976）設立以来、これまでに市内に点在する数多くの遺跡の発掘調査を実施し、地中に埋もれていた京都の過去の姿を多く明らかにしてきました。

これらの調査成果は現地説明会、京都市考古資料館での展示、写真展あるいはホームページを通じて広く公開し、市民の皆様に京都の歴史に対し、関心を深めていただけるよう努めております。

このたび、マンション建設に伴う上京遺跡の発掘調査成果をここに報告いたします。本報告書の内容につきまして御意見、御批評をお聞かせいただけますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当遺跡の調査に際して御協力ならびに御支援たまわりました関係各位に厚く感謝し、御礼申し上げます。

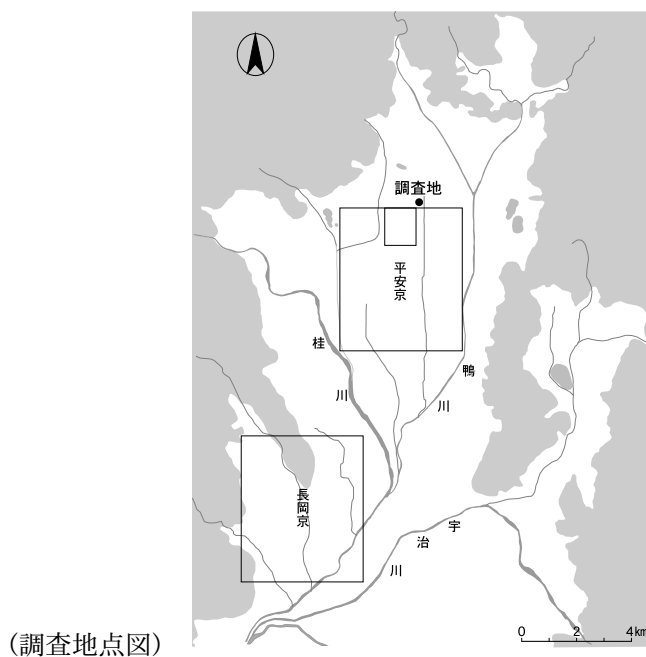
平成 23 年 9 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 上京遺跡
- 2 調査所在地 京都市上京区元誓願寺通大宮東入寺今町 513
- 3 委 託 者 佐わらび株式会社 代表取締役 村田和哉
- 4 調査期間 2011年4月25日～2011年6月22日
- 5 調査面積 300 m²
- 6 調査担当者 小松武彦
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図(縮尺1:2,500)「船岡山」[鷹峰]を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系VI (ただし、単位(m)を省略した)
- 9 使用標高 T.P.:東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 種類別に通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 小松武彦
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。



目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	2
3. 遺 構	5
(1) 層序	5
(2) 遺構の概要	5
(3) 平安時代前期の遺構	7
(4) 平安時代後期から鎌倉時代の遺構	10
(5) 室町時代から江戸時代の遺構	12
4. 遺 物	19
(1) 弥生時代の土器類	19
(2) 平安時代前期の土器類	19
(3) 平安時代後期から鎌倉時代の土器類	20
(4) 室町時代の土器類	25
(5) 江戸時代の土器類	28
(6) 瓦類	29
(7) その他の遺物	30
5. ま と め	32

図 版 目 次

図版 1	遺 構	1	南調査区	平安時代から鎌倉時代全景 (北から)
		2	北調査区	平安時代から室町時代全景 (東から)
図版 2	遺 構	1	南調査区	室町時代から江戸時代全景 (北から)
		2	北調査区	江戸時代全景 (東から)
図版 3	遺 構	1	土坑 268 (北から)	
		2	ピット 269 紡錘車出土状況 (西から)	
		3	ピット 180 遺物出土状況 (南から)	
		4	地下式倉庫 288 (北から)	
図版 4	遺 構	1	土坑 159 (北東から)	
		2	堀 78 (北から)	
		3	集石 170 (北から)	

- 4 集石 231 (西から)
- 5 集石 169 (北から)
- 6 集石 168 (南から)
- 図版 5 遺物 土坑 268 出土土器
- 図版 6 遺物 土取穴 211 出土土器
- 図版 7 遺物 土坑 255・堀 78・土坑 222 出土土器
- 図版 8 遺物 土坑 25・164 出土土器、その他の遺物

挿 図 目 次

図 1	調査位置図 (1 : 2,500)	1
図 2	調査前全景 (南から)	2
図 3	現地公開風景 (北西から)	2
図 4	調査区配置図 (1 : 400)	2
図 5	周辺遺跡および調査地位置図 (1 : 10,000)	3
図 6	調査区東壁断面図 (1 : 50)	6
図 7	調査区南壁断面図 (1 : 50)	7
図 8	平安時代前期遺構平面図 (1 : 100)	8
図 9	平安時代後期から鎌倉時代遺構平面図 (1 : 100)	9
図 10	落込み 302・溝状遺構 310 断面図 (1 : 50)	10
図 11	土坑 268 実測図 (1 : 40)	10
図 12	ピット 180 実測図 (1 : 20)	10
図 13	地下式倉庫 288 実測図 (1 : 40)	11
図 14	溝 144 実測図 (1 : 50)	12
図 15	室町時代から江戸時代遺構平面図 (1 : 100)	13
図 16	土坑 159 実測図 (1 : 50)	14
図 17	土坑 158 実測図 (1 : 50)	14
図 18	堀 78 実測図 (1 : 50)	15
図 19	集石 169・170・231 実測図 (1 : 40)	15
図 20	集石 167・168 実測図 (1 : 40)	16
図 21	ピット列 1 実測図 (1 : 50)	16
図 22	石組み 149・土坑 17 実測図 (1 : 40、1 : 20)	17
図 23	集石 26・46・47 実測図 (1 : 40)	17
図 24	弥生土器実測図 (1 : 4)	19

図 25 土坑 135・土坑 221・落込み 302・溝状遺構 310 出土土器実測図（1：4）……………	20
図 26 土坑 268 出土土器実測図 1（1：4）……………	21
図 27 土坑 268 出土土器実測図 2（1：4）……………	22
図 28 地下式倉庫 288 出土土器実測図（1：4）……………	22
図 29 ピット 180 出土土器実測図（1：4）……………	23
図 30 溝 144 出土土器実測図（1：4）……………	23
図 31 土取穴 211 出土土器実測図（1：4）……………	24
図 32 土取穴 255 出土土器実測図（1：4）……………	25
図 33 土取穴 151 出土土器実測図（1：4）……………	26
図 34 堀 78 出土土器実測図（1：4）……………	26
図 35 集石 168 出土土器実測図（1：4）……………	27
図 36 土坑 222 出土土器実測図（1：4）……………	27
図 37 土坑 25 出土土器実測図（1：4）……………	28
図 38 土坑 164 出土土器実測図（1：4）……………	28
図 39 瓦拓影・実測図（1：4）……………	29
図 40 埴拓影・実測図（1：4）……………	30
図 41 石製品実測図（1：2、1：4）……………	30
図 42 角製品実測図（1：1）……………	30
図 43 角製品顕微鏡写真……………	30
図 44 漆器実測図（1：4）……………	31
図 45 錢貨拓影（1：2）……………	31

表 目 次

表 1 遺構概要表……………	5
表 2 遺物概要表……………	19

付 表 目 次

附表 1 土器類一覧表……………	33
附表 2 瓦類・その他の遺物一覧表……………	36

上京遺跡

1. 調査経過

調査地は、京都市上京区元誓願寺通大宮東入寺今町地内に位置する。当地は、平安京左京北辺の隣接地で、中世以降に公家屋敷や武士屋敷、寺院などが造営され、その周辺に市街地が広がり形成された上京遺跡の南西部に位置する。当該地にマンション建設が計画された。発掘調査に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「京都市文化財保護課」という）が試掘調査を実施した。その結果、室町時代以降の包含層や遺構が良好に遺存していることが明らかとなり、遺跡の実態を把握するために発掘調査が必要と判断された。調査は財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受け実施した。

調査は盛土・江戸時代の包含層を地表下0.7 mまで重機で掘削した。掘削残土が場内で処理できないことが判明したため、調査区を北側5 m（北調査区）と南側17.5 m（南調査区）で分割して行った。北調査区は室町時代の包含層上面から人力掘削で調査を行い、鎌倉時代から江戸時代までの遺構を2面に分けて調査した。南調査区は鎌倉時代から室町時代の包含層を掘削した後、人力掘削で平安時代から江戸時代までの遺構を3面に分けて調査した。

なお、6月18日には地元向けに現地公開を開催し、約130名の参加者があった。



図1 調査位置図（1：2,500）



図2 調査前全景（南から）



図3 現地公開風景（北西から）

2. 位置と環境

調査地は、平安京一条大路から北2町分（約240m）にあたり、大宮通からは約60m東側に位置している。標高は57mで北西から南東方向に傾斜している。

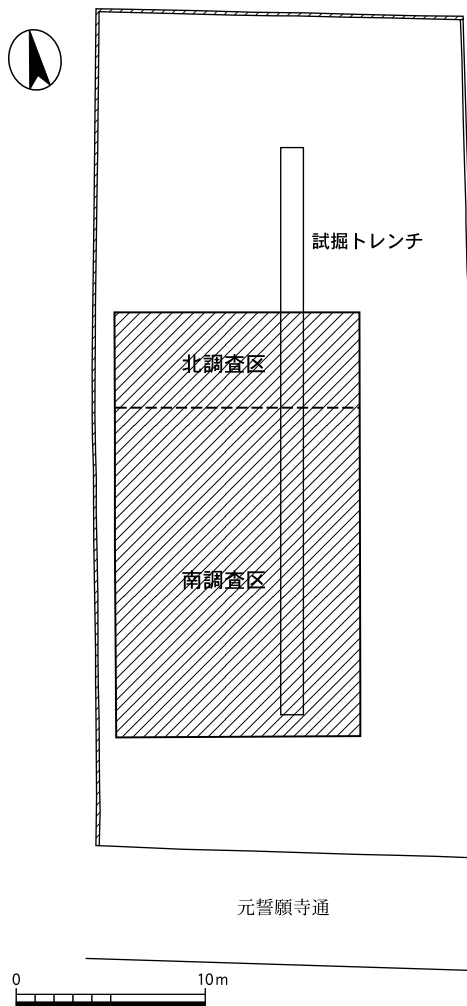


図4 調査区配置図（1：400）

この地は平安宮北郊で、平安京の造営直後から園池司（内膳司）が管轄して、天皇に供御する野菜や果物を栽培する御料地であった。しかし、9世紀前半代には、天皇や有力貴族の別荘・邸宅・寺社の用地として開発が進み、大宮大路末沿いには淳和天皇の離宮である紫野院（雲林院）、賀茂社に仕える齋王の御所である紫野齋院、長保三年（1001）に藤原行成が建立した世尊寺、寛仁元年（1017）に平親信が建立した尊重寺などが所在する。

『権記』長保三年（1001）三月二十二日条に「内蔵允丈部保実竹田利成等供養道場並在世尊寺東也、南実相寺本是摂津守方隆朝臣宅、桃園宮也、保実買得為寺、北妙覚寺本是故坂本亮直朝臣宅處、大僧正伝領、依利成請僧正興利成之、建一堂、安佛像、今日其供養也」とあり、世尊寺の東には竹田利成の妙覚寺と丈部保実の実相寺が建立された記述があり、11世紀代にも寺が建立される。

鎌倉時代初頭には元誓願寺通の由来となった誓願寺が承元三年（1209）に一条通小川付近に建立されたと「百鍊抄」の記述から読み取れる。

室町時代の「応仁の乱」時には堀川通上立売付近

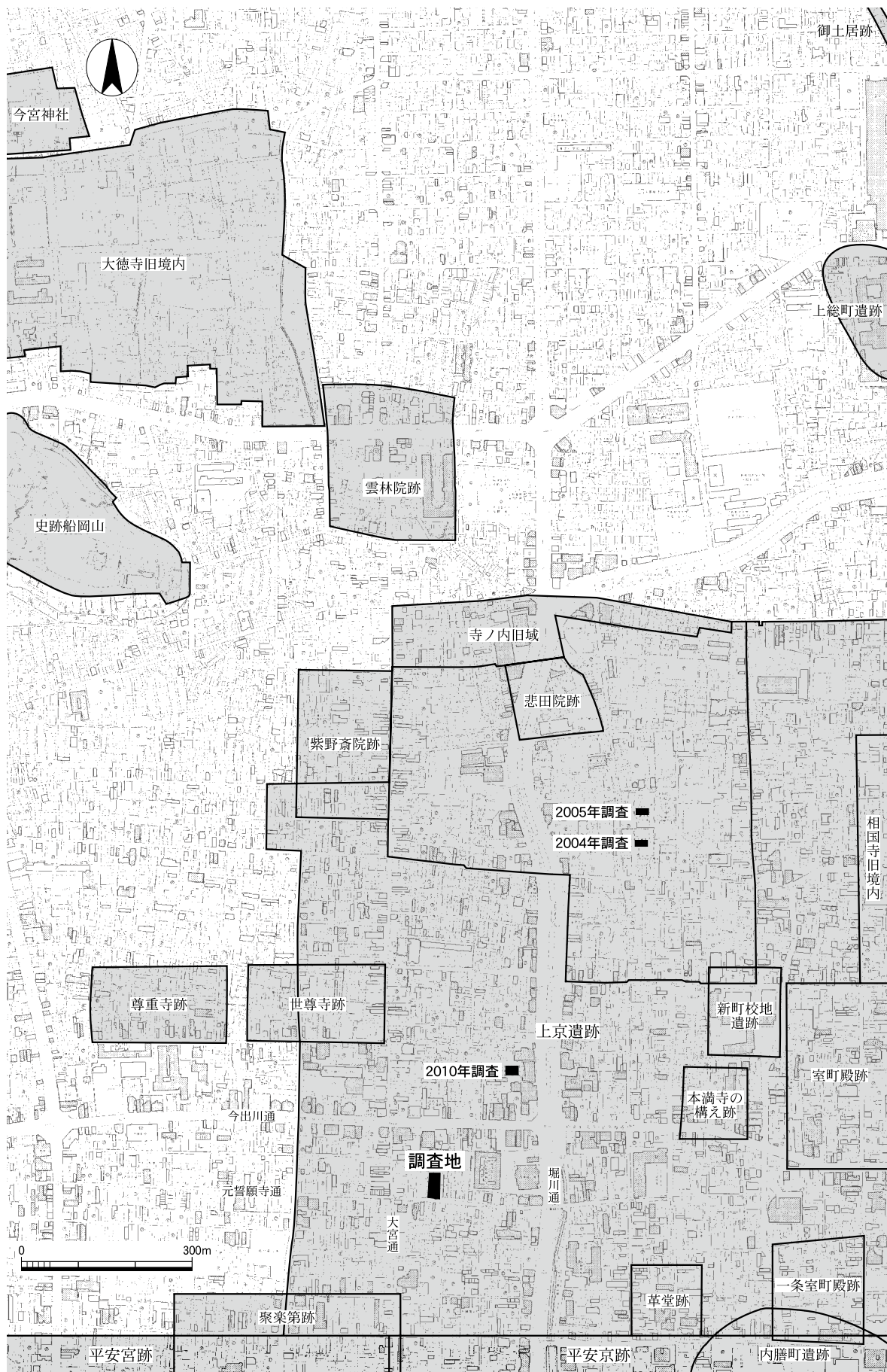


図5 周辺遺跡および調査地位置図 (1 : 10,000)

に山名宗全の屋敷があり、西軍本陣が置かれたことで、たびたび戦災にみまわれる。戦いが終わると本陣周辺に織物職人が移住し、西陣織りの町として発展し、市街地化が進む。

江戸時代には幕府の保護を受け、大宮通五辻付近は「千両ヶ辻」と呼ばれ、繁盛期を迎える。しかし、享保十五年（1730）の火災「西陣焼け」によって織機が焼失し打撃を受け衰退する。

調査地周辺での発掘調査は、堀川通の東側の表千家不審庵敷地内で、細川典厩家邸宅推定地を2004年に実施し、平安時代と鎌倉時代の溝・柵列・井戸などの遺構が検出されている¹⁾。同じく裏千家今日庵敷地内では、2005年に調査が実施され、室町時代と江戸時代の溝・井戸などの遺構が検出されている²⁾。2010年には、初めて堀川通の西側で調査が実施され、室町時代と江戸時代の柱列・溝・礎石などの遺構が検出されている³⁾。

註

- 1) 吉崎 伸『上京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-9（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 2) 長戸満男「上京遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
- 3) 布川豊治『上京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-2（財）京都市埋蔵文化財研究所 2010年

参考文献

- 高橋康夫『京都中世都市都市史研究』思文閣出版 1983年
『権記』長保三年三月二十二日条
『京都の歴史』第十巻 年表・辞典 京都市編 1975年

3. 遺 構

(1) 層序 (図6・7)

調査地の層序は、遺構が重複しているため、堆積層は寸断され、調査区内全域にわたる共通の堆積土は、地山の黄褐色粘質土だけである。調査地の基本層序を東壁と南壁の2箇所にて記述する。

基本層序は、地表下約0.3mに暗赤褐色泥砂の焼土層(東壁の3層、南壁の2層)が0.1mほど堆積する。この層は出土遺物から江戸時代後期以降の火災層と推定される。この下層には、江戸時代の整地層(東壁の7・8・11・15層、南壁の5層)が0.2～0.4mの厚さで堆積する。地表下0.6～0.7mに室町時代の包含層(東壁の19・25・35・45層、南壁の14・22層)が0.2～0.35mの厚さで堆積する。この下層に地表下0.8～0.9mで鎌倉時代の包含層(東壁の55層、南壁の23・26層)が0.2～0.3mの厚さで堆積し、さらに下層には褐色粘質土層(東壁の56層、南壁の37層)があり、地表下1.0～1.2mで黄褐色粘質土層(東壁の57層、南壁の38層)の地山面となる。

(2) 遺構の概要

北調査区は地表下約0.6～0.7mにある室町時代の包含層上面(東壁の25層)から調査を行い、この面で江戸時代の土坑・集石・井戸などを検出した。次に、黄褐色粘質土層の地山(東壁の57層)まで掘削し、この面で平安時代の土坑、鎌倉時代のピット・土坑・溝・土取穴、室町時代の集石・土坑・ピットなどを検出した。

南調査区は室町時代と鎌倉時代の包含層を掘削し、地表下約1.0mの褐色粘質土層(南壁の37層)上面から調査を行い、この面で室町時代のピット・堀・土坑・溝・土取穴・集石と、江戸時代の土坑・井戸・石組みなどを検出した。次に、地表下約1.2mの黄褐色粘質土層(南壁の38層)の地山面まで掘削し、この面で平安時代前期と平安時代後期から鎌倉時代の遺構が遺存していることが判明したため、2時期に分けて調査を行った。平安時代は落込み・土坑・溝状遺構、鎌倉時代は地下式倉庫・ピット・土坑・土取穴などを検出した。

表1 遺構概要表

時 代	遺 構
平安時代前期	土坑135・221、落込み302、溝状遺構310
平安時代後期～鎌倉時代	土坑268、ピット180・190・220・251・265・269・270・275・292・293・299・309、地下式倉庫288、溝144、土取穴88・110・211・212・255
室町時代	土取穴群1・2、土取穴151、堀78、土坑158・159・249、井戸290、集石167～170・179・185・231・242、ピット列1
江戸時代	土坑17・25・164・222、石組み149、集石26・46・47、井戸4・5・7～9・31・33・38・42・44・77

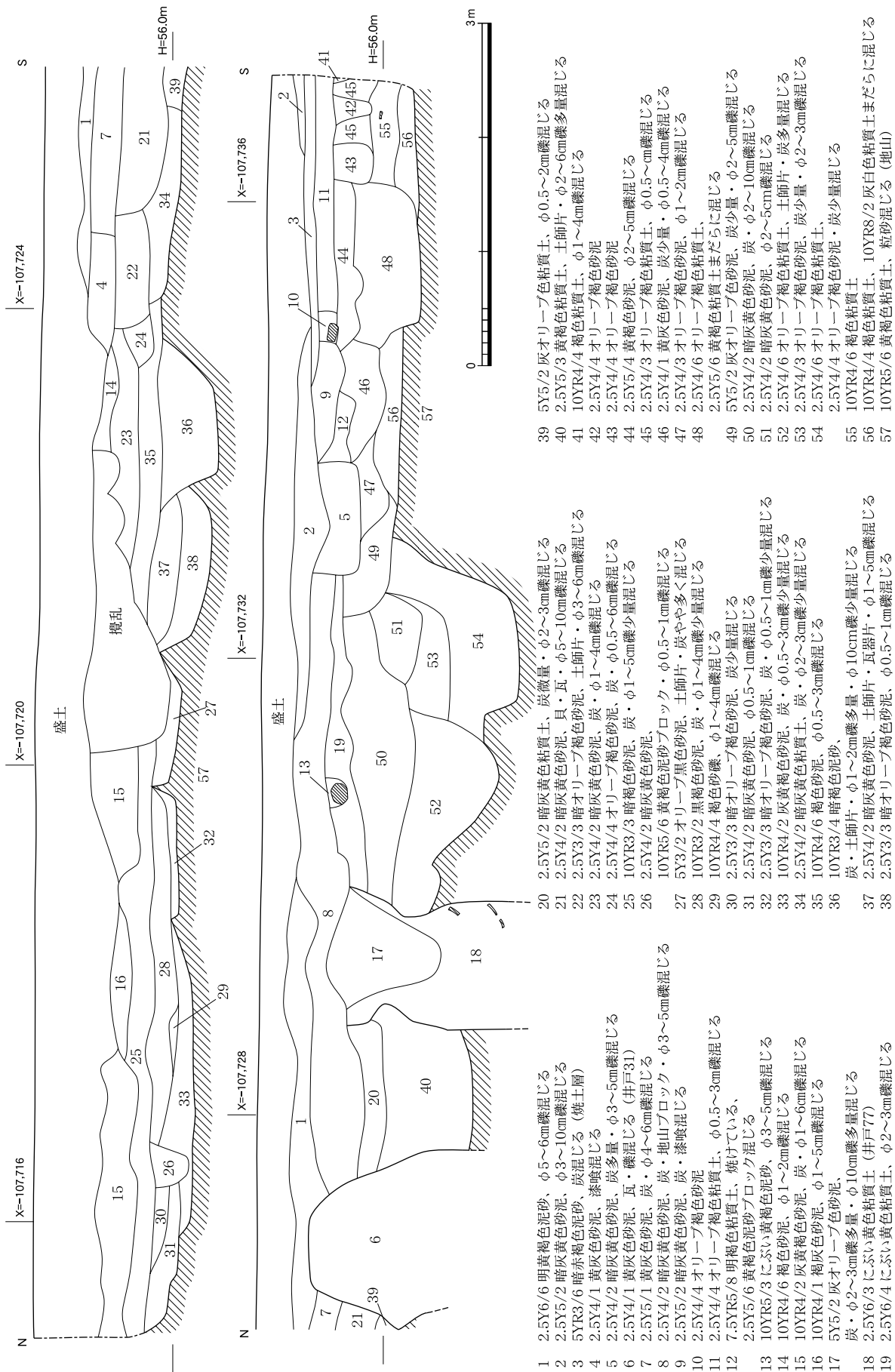


図6 調査区東壁断面図 (1 : 50)

- | | | | |
|----|--|----|----------------------------------|
| 1 | 2.5Y6/6 明黄褐色泥砂、φ5~6cm 礫混じる | 39 | 5Y5/2 灰オリーブ色粘質土、φ0.5~2cm 礫混じる |
| 2 | 2.5Y5/2 暗灰黄色砂泥、φ3~10cm 礫混じる | 40 | 2.5Y5/3 黄褐色粘質土、土師片・φ2~6cm 礫多量混じる |
| 3 | 5YR3/6 暗赤褐色泥砂、炭混じる(盛土層) | 41 | 10YR4/4 褐色粘質土、φ1~4cm 礫混じる |
| 4 | 2.5Y4/1 黄灰色砂泥、漆喰混じる | 42 | 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥 |
| 5 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥、炭多量・φ3~5cm 礫混じる | 43 | 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥 |
| 6 | 2.5Y4/1 黄灰色砂泥、瓦・礫混じる(井戸31) | 44 | 2.5Y5/4 黄褐色砂泥、φ2~5cm 礫混じる |
| 7 | 2.5Y5/1 黄灰色砂泥、炭・φ4~6cm 礫混じる | 45 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土、φ0.5~10cm 礫混じる |
| 8 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥、炭・地山ブロック・φ3~5cm 礫混じる | 46 | 2.5Y4/1 黄灰色砂泥、炭少量・φ0.5~4cm 礫混じる |
| 9 | 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥 | 47 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥、φ1~2cm 礫混じる |
| 10 | 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥 | 48 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土、 |
| 11 | 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土、φ0.5~3cm 礫混じる | 49 | 2.5Y5/6 黄褐色粘質土まだらに混じる |
| 12 | 7.5YR5/8 明褐色粘質土、焼けている、 | 50 | 5Y5/2 灰オリーブ色砂泥、炭少量・φ2~5cm 礫混じる |
| 13 | 2.5Y5/6 黄褐色泥砂ブロック混じる | 51 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥、炭・φ2~10cm 礫混じる |
| 14 | 10YR5/3 にぶい黄褐色泥砂、φ3~5cm 礫混じる | 52 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥、φ2~5cm 礫混じる |
| 15 | 10YR4/6 褐色砂泥、φ1~2cm 礫混じる | 53 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土、土師片・炭多量混じる |
| 16 | 10YR4/2 暗灰黄色砂泥、炭・φ1~6cm 礫混じる | 54 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥、炭少量・φ2~3cm 礫混じる |
| 17 | 10YR4/1 褐色砂泥、φ1~5cm 礫混じる | 55 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土、 |
| 18 | 5Y5/2 灰オリーブ色砂泥、炭・φ2~3cm 礫多量・φ10cm 礫少量混じる | 56 | 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥・炭少量混じる |
| 19 | 2.5Y6/3 にぶい黄褐色粘質土(井戸77) | 57 | 10YR4/4 褐色粘質土 |
| | | | 10YR8/2 灰白色粘質土まだらに混じる |
| | | | 10YR5/6 黄褐色粘質土、粒砂混じる(地山) |

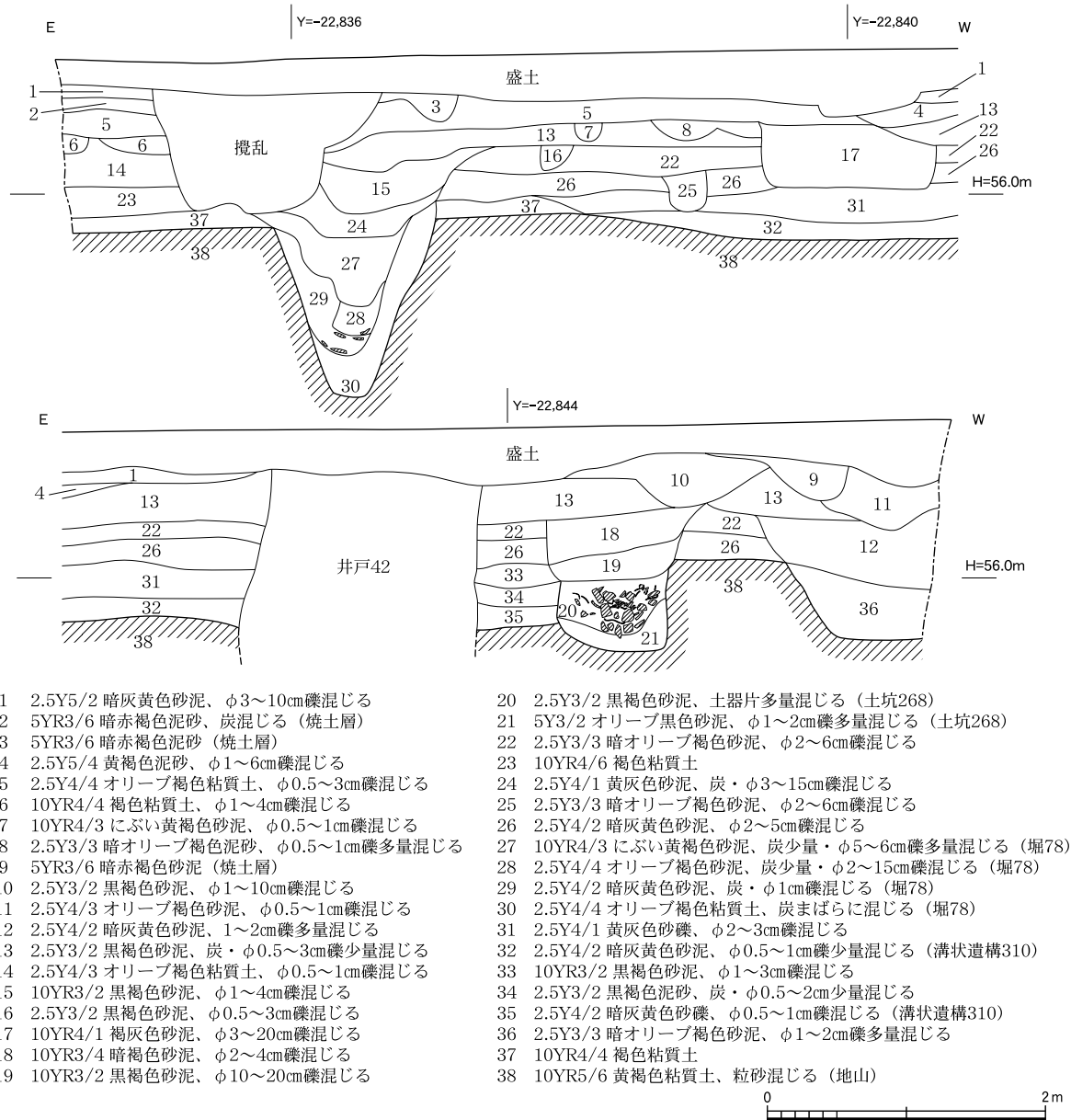


図7 調査区南壁断面図（1：50）

（3）平安時代前期の遺構（図8、図版1）

土坑 135 調査区の北壁際で検出した。遺構の大半を攪乱されていたため形状は不明、深さ 0.4 m である。埋土は 1 ~ 3 cm の礫が混じる黄褐色泥砂で、9 世紀前半の遺物が出土した。

土坑 221 調査区の北西側で検出した。南東側は攪乱を受けている。平面形は最長 2.1 m の不定形で、深さ 0.9 m ですり鉢状を呈する。埋土は黄褐色泥砂などで、土取り穴の可能性が有る。9 世紀前半から中頃の遺物が出土した。

落込み 302（図 10）調査区中央西寄りから南壁付近までの範囲で検出した。北側と中央部は攪乱を受け、検出規模は南北 8.2 m、東西約 5.0 m、深さ 0.1 ~ 0.3 m である。中央部では東肩から緩やかに傾斜し、中央で 0.15 m 程下降する。埋土は明黄褐色粘質土などで、9 世紀中頃の遺物が

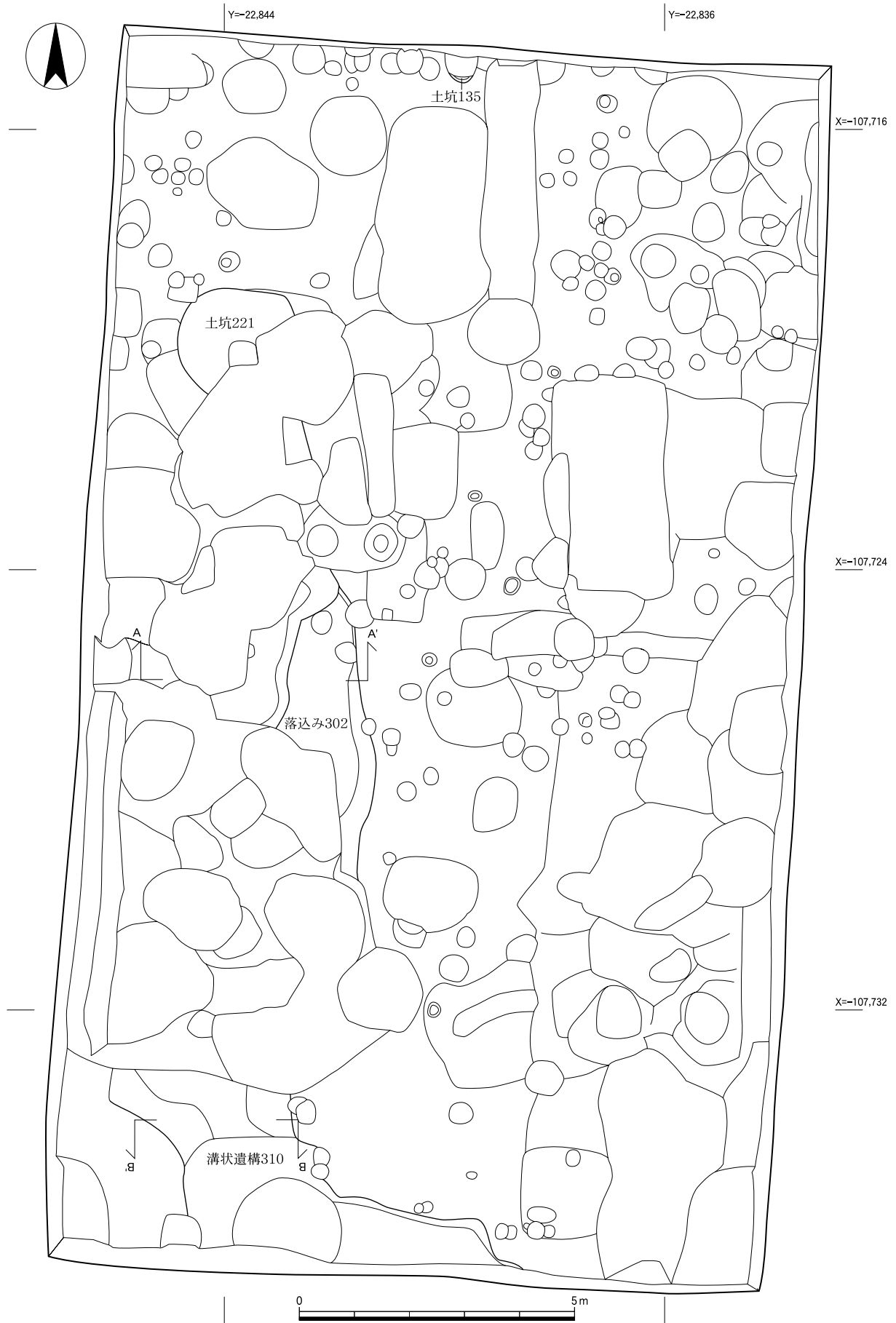


図8 平安時代前期遺構平面図 (1 : 100)

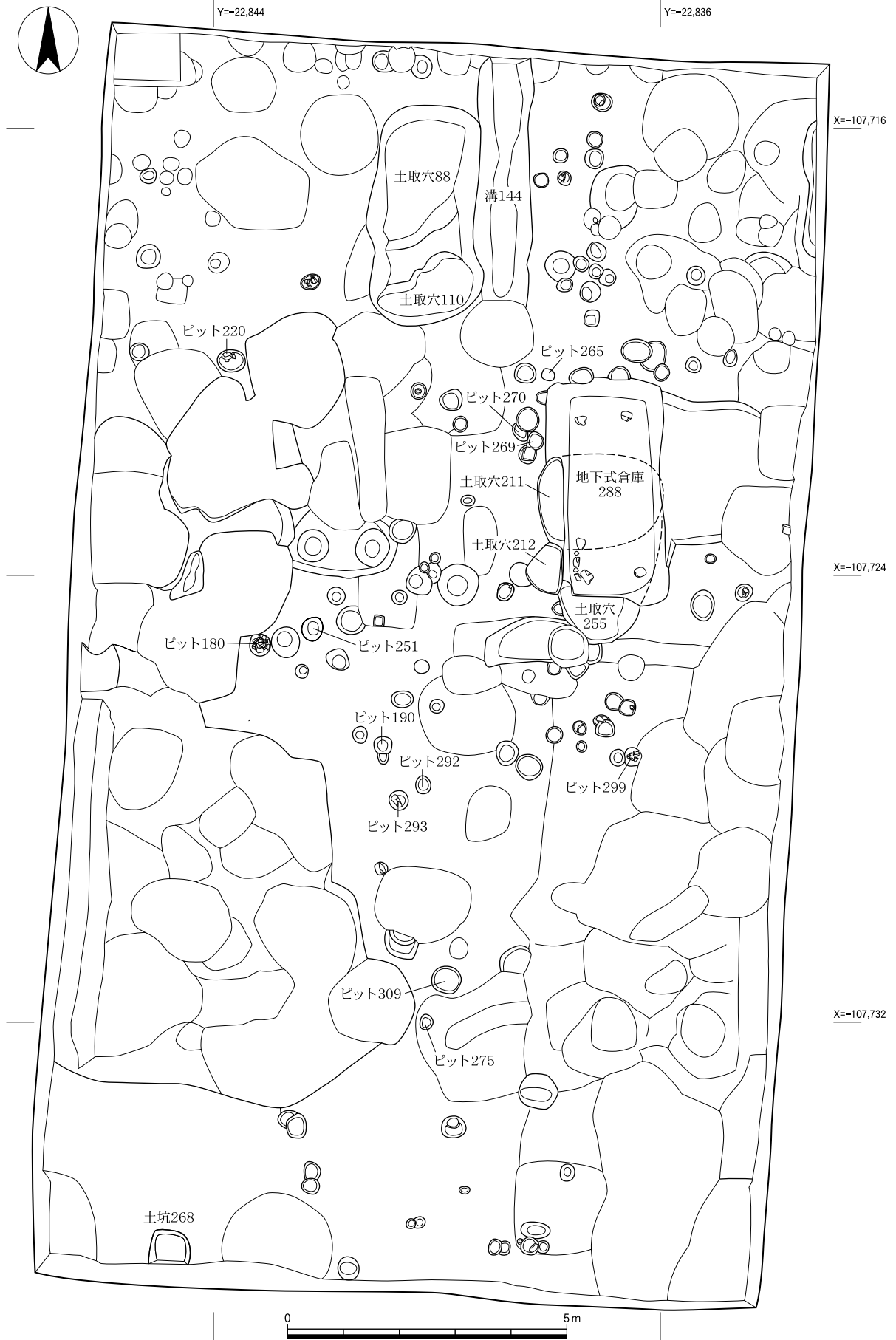


図9 平安時代後期から鎌倉時代遺構平面図 (1:100)

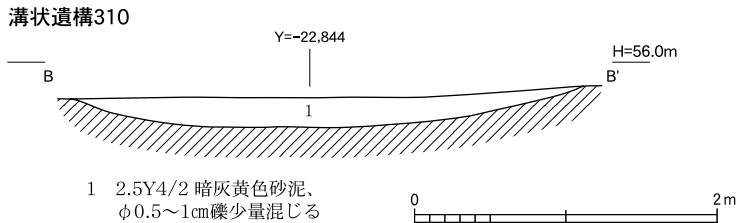
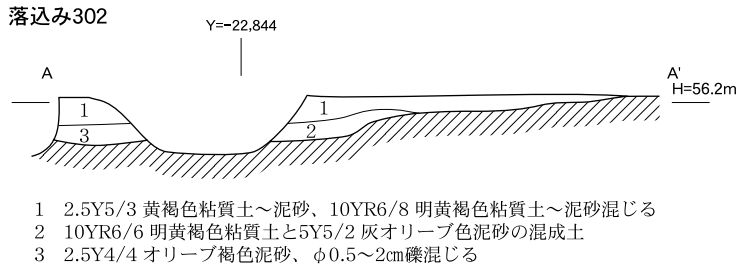


図10 落込み302・溝状遺構310断面図(1:50)

出土した。

溝状遺構310(図10)調査区南端で北から南東方向に検出した溝状の遺構である。検出長は西肩が約2.5m、東肩が約5.0mで南壁の調査区外に延びる。深さ約0.2mと浅い。落込み302との関係は土取穴群1で攪乱されているため不明である。埋土は炭や0.5～2cmの礫を含む暗灰黄色砂泥で、9世紀前半から中頃の遺物が出土した。

(4) 平安時代後期から鎌倉時代の遺構(図9、図版1)

平安時代から鎌倉時代の遺構は地下式倉庫・土取穴・土坑・溝・ピットなどを検出している。

土坑268(図11、図版3-1)調査区南西の南壁際で検出した。平面形は東西0.8m、南北0.6m以上の方形で、深さ0.5mである。埋土は炭や1～2cmの礫を含む黒褐色砂泥などで、二次焼成を受けた12世紀後半から13世紀前半の遺物が多量に出土した。

ピット180(図12、図版3-3)調査区中央西寄りで見出した。平面形は直径0.6mの円形で、深さ0.3mである。埋土はオリーブ黒色砂泥で、完形の土師器皿など13世紀前半の遺物が出土した。埋納遺構と考えられる。

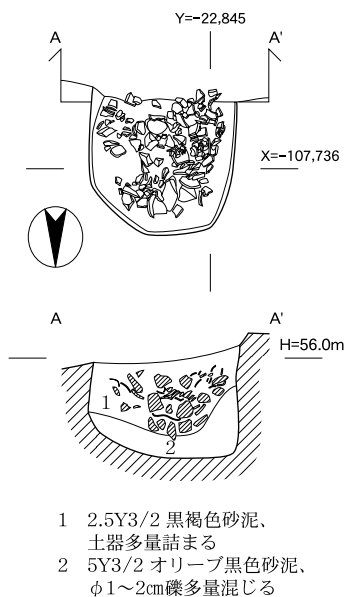


図11 土坑268実測図(1:40)

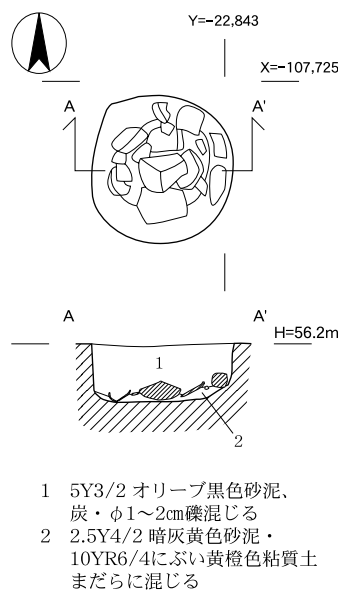


図12 ピット180実測図(1:20)

ピット269(図版3-2)地下式倉庫288の西際で見出した。平面形は直径0.3mの円形で、深さ0.3mである。埋土はオリーブ黒色泥砂で、滑石製紡錘車と13世紀前半の遺物が出土した。

地下式倉庫288(図13、図版3-4)上部および南側が攪乱される。平面形は南北4.0m、東西2.1mの長方形で、深さ1.2mである。壁面はほぼ垂直で床面は平坦である。四隅に直径20cm前後の河原

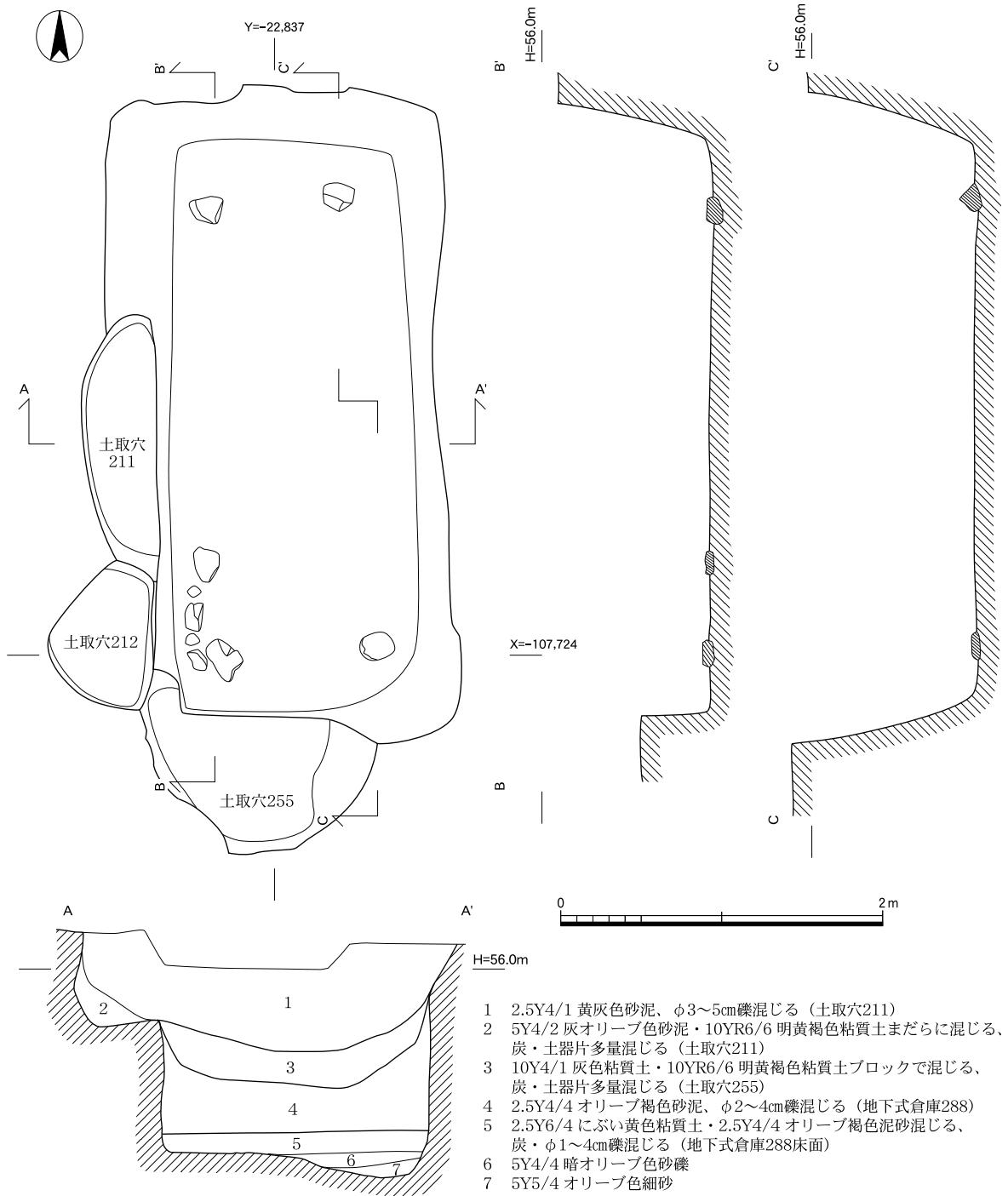
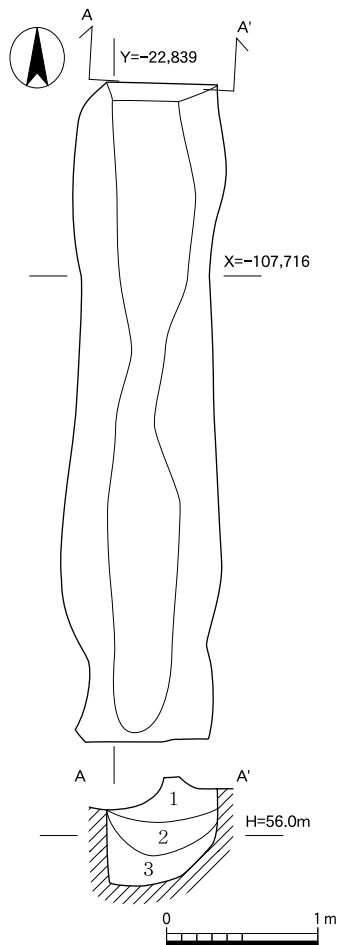


図 13 地下式倉庫 288 実測図（1：40）

石が据えられ、南西壁際床面には直径 5～15 cm の河原石が 5 石、壁に沿って列状に並ぶ。壁面の擁壁材を支える石と考えられる。埋土は 2～4 cm の礫を含むオリーブ褐色砂泥などで、13 世紀前半の遺物が出土した。

土取穴 211 地下倉庫 288 の上部を削平する遺構で、平面形は東西 2.2 m、南北約 1.6 m の不定形である。深さ 0.6 m で西壁側が袋状を呈する。埋土は 3～5 cm の礫と炭を多く含む黄灰色泥砂などで、13 世紀前半の遺物が多量に出土した。



- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色泥砂、土師器片・炭・φ1~5cm礫混じる
- 2 5Y4/1 灰色砂泥、炭少量・φ2~4cm礫混じる
- 3 5Y5/2 灰オリーブ色粘質土、炭少量混じる

図 14 溝 144 実測図 (1 : 50)

土取穴 212 地下式倉庫 288 の南西隅を削平する遺構で、平面形は南北 0.9 m、東西約 0.7 m の不定形である。深さ約 0.6 m で袋状を呈する。埋土は黒褐色砂泥で、13 世紀前半から中頃の遺物が出土した。

土取穴 255 地下倉庫 288 の南肩を削平する。平面形は東西 1.4 m、南北約 2.0 m 以上の不定形である。深さ約 0.7 m で袋状を呈する。埋土は炭を多く含む灰色粘質土などで、13 世紀前半の遺物が多量に出土した。

土取穴 88 調査区中央部北寄り検出した。平面形は南北 2.5 m、東西 1.9 m の方形で、深さ約 0.8 m のやや袋状を呈する。埋土は炭や 2 ~ 5 cm の礫を含む暗オリーブ褐色砂泥とオリーブ黒色砂泥で、13 世紀前半から中頃の遺物が出土した。

土取穴 110 北側を土取穴 88 に切られるが時期差はほとんどない。平面形は南北 1.1 m 以上、東西 2.0 m の方形で、深さ約 0.6 m である。埋土は 2 ~ 4 cm の礫を含むオリーブ黒色砂泥と暗灰黄色砂泥で、13 世紀前半から中頃の遺物が多量に出土する。

溝 144 (図 14) 土取穴 110 の東際で南北方向に検出した。検出長は北壁から 4.3 m、幅 0.9 m で、断面形は深さ 0.6 m の U 字形を呈する。南端は立ち上がり、途切れる。埋土は暗灰黄色泥砂・灰色砂泥・灰オリーブ色粘質土の 3 層に分かれ、13 世紀前半から中頃の遺物が出土する。

(5) 室町時代から江戸時代の遺構 (図 15、図版 1・2)

室町時代から江戸時代の遺構は土取穴群・集石・ピット列・溝・堀・土坑・ピット・井戸などを検出している。土取穴群は調査区の南東側と南西側に 2 箇所検出した。

土取穴群 1 南西側で検出した土坑群で、8 基の土坑で構成される。各土坑の規模は直径 1.6 ~ 3.0 m 以上で、平面形は方形や楕円形で規則性は認められない。深さ 1.5 ~ 2.0 m で袋状を呈する。埋土は炭や 2 ~ 10 cm の礫を含むオリーブ褐色砂泥で、15 世紀中頃の遺物が多量に出土した。北東隅で検出した土取穴 151 からは、茶道具が多数出土した。

土取穴群 2 南東側の 10 基の土坑で構成される。各土坑の規模は直径 1.0 ~ 2.0 m 以上、深さ 1.0 ~ 1.4 m である。平面は不定形である。埋土は炭や 2 ~ 3 cm の礫を含むオリーブ褐色砂泥で、15 世紀中頃の遺物が出土した。

土坑 159 (図 16、図版 4-1) 土取群 1 南西の西壁際で検出した。上部は土取穴で攪乱されているが、平面形は直径 2.2 m の円形を呈し西壁外に延びる。南西の西壁隅には長軸 0.6 m 大のチャー

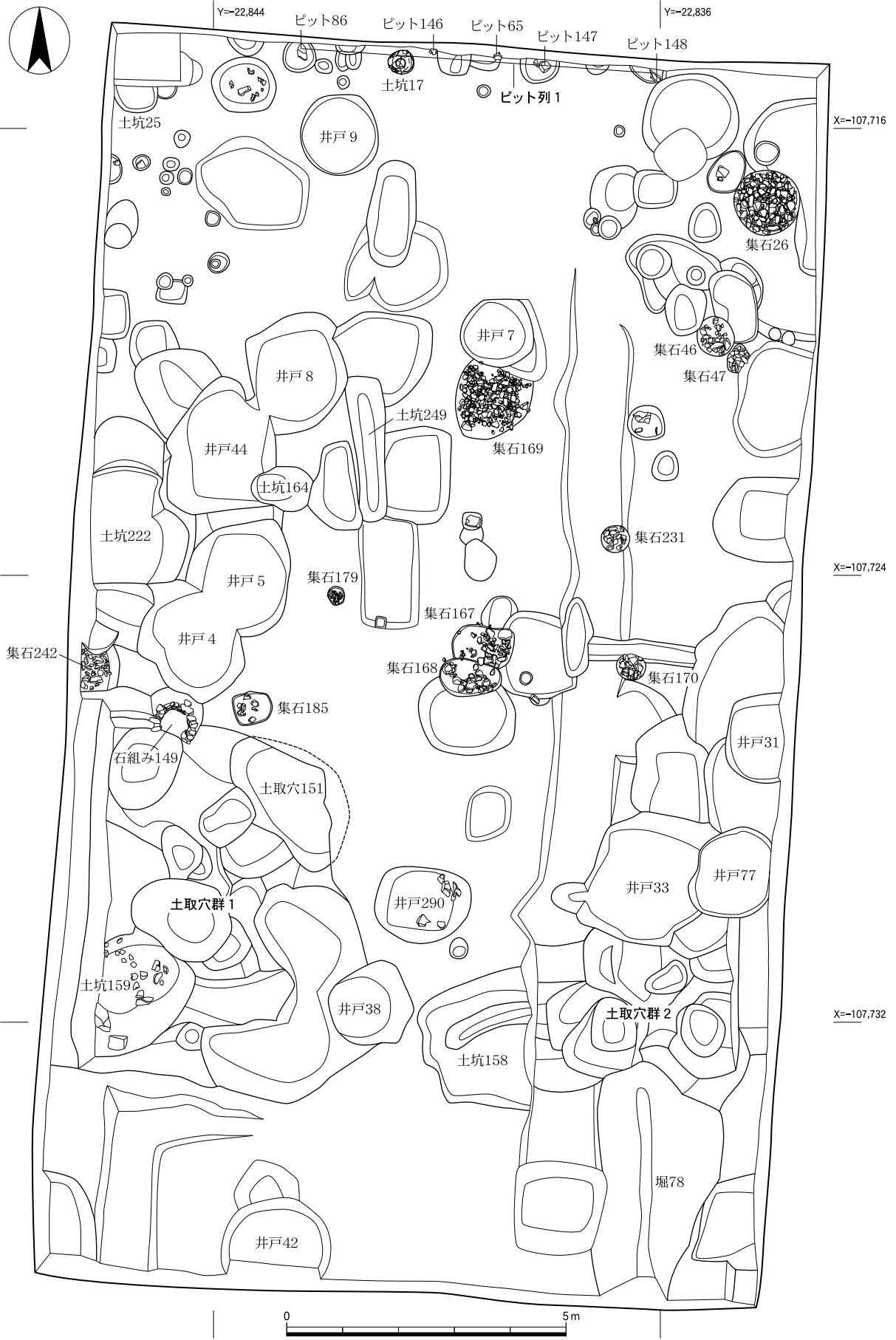


図15 室町時代から江戸時代遺構平面図 (1:100)

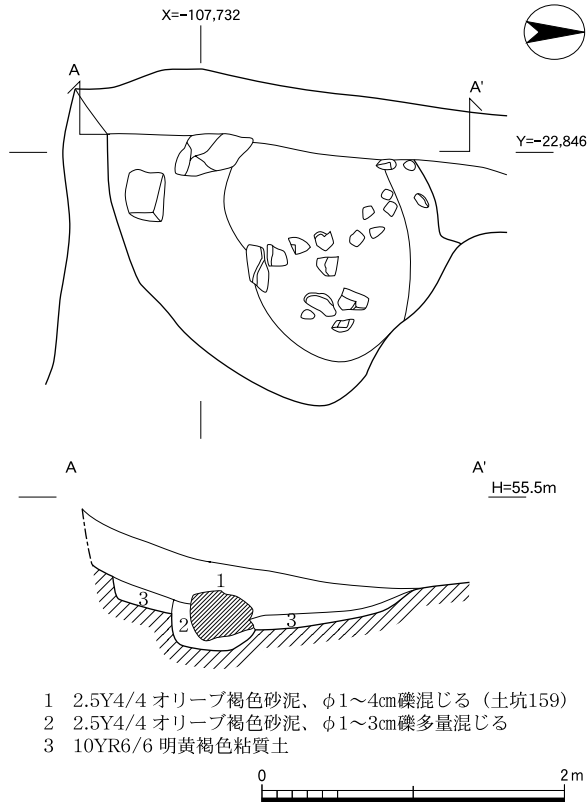


図16 土坑 159 実測図 (1 : 50)

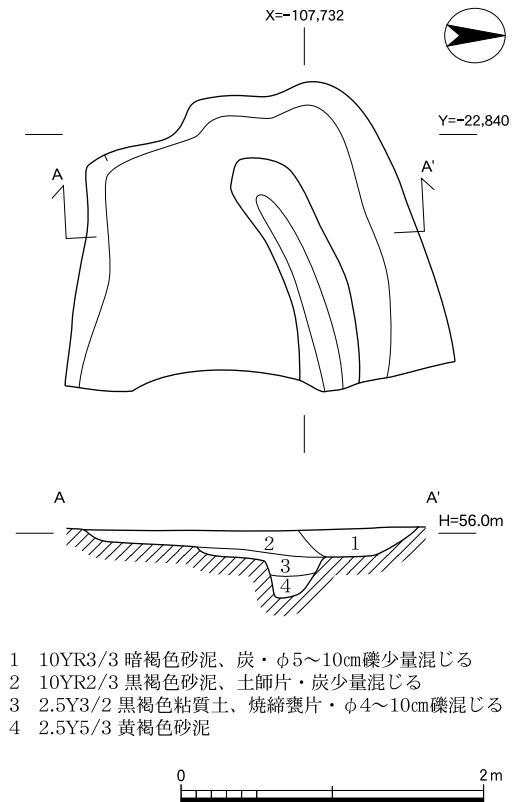


図17 土坑 158 実測図 (1 : 50)

ト石が黄褐色粘質土（地山）を掘り込んで据えられている。この石から北東側には円弧状に 10 cm 前後の石が並んでいる。埋土は 1 ~ 4 cm の礫を含むオリーブ褐色砂泥で、15 世紀中頃の遺物が出土した。園池遺構の一部の可能性はある。

土坑 158 (図 17) 調査区南寄りで検出した。東側は攪乱されているが、平面形は南北 2.6 m、東西 2.0 m 以上の不定形である。底部中央部に東西 1.6 m 以上、幅 0.4 m、深さ約 0.2 m の小溝が傾斜して東へ延びる。埋土は 5 ~ 10 cm 大の石と暗褐色砂泥で、溝内は黄褐色泥土である。15 世紀中頃の遺物が出土した。雨水を浸透させる排水施設と考えられる。

土坑 249 調査区中央部北寄りで検出した。平面形は南北 2.6 m、東西 0.5 ~ 0.7 m の隅丸長方形で、深さ 0.8 m である。埋土は約 10 cm 大の石と磚を多量に含むオリーブ褐色粘質土で、15 世紀中頃の遺物が出土した。性格は不明である。

井戸 290 調査区中央の南寄りで検出した。平面形は東西 1.7 m、南北 1.4 m の隅丸方形で、深さ 1.1 m 以上である。井戸枠の痕跡などはなく、素掘りと考えられる。埋土は 1 ~ 3 cm の礫を含む暗オリーブ褐色砂泥で、15 世紀中頃の遺物が出土した。

堀 78 (図 18、図版 4- 2) 調査区南東の南壁際で南北方向に検出した。検出長は南壁から北へ 4.3 m、幅 1.3 ~ 2.2 m、深さ 1.55 m である。北端で立ち上がり、途切れる。南側は調査区外へ延びる。断面形は V 字形を呈する。埋土は 4 層に分かれ、中層部には炭や 2 ~ 15 cm の礫が堆積する。15 世紀中頃の遺物が出土しており、応仁・文明の乱前後の遺構と考えられる。

集石 169 (図 19、図版 4- 5) 調査区北寄りで検出した。北側は攪乱されているが、平面形は

直径約 1.4 m の円形で、深さ 0.2 m である。埋土は 5 ～ 15 cm 大の石とオリブ黒色砂泥などで、16 世紀中頃の遺物が出土した。

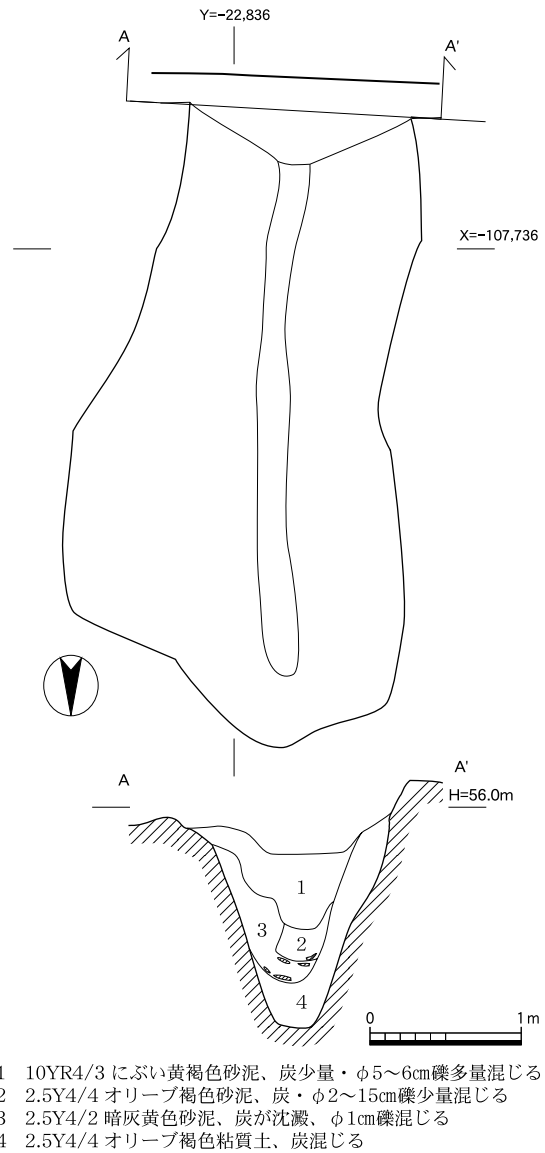
集石 170・231 (図 19、図版 4-3・4-4) 調査区中央東寄りで見出した。両遺構とも平面形は直径約 0.5 m の円形で、深さ約 0.4 m である。埋土は 10 ～ 15 cm 大の石と炭混じりの暗灰黄色砂泥で、16 世紀中頃の遺物が出土した。

集石 179 調査区中央西寄りで見出した。平面形は直径 0.3 m の円形で、深さ 0.3 m である。埋土は 2 ～ 10 cm 大の石と瓦と黒褐色砂泥で、16 世紀中頃の遺物が出土した。

集石 185 調査区中央西寄りで見出した。平面形は東西 0.7 m、南北 0.6 m の方形で、深さ 0.2 m である。埋土は 10 cm 大の石と炭混じりの黒褐色砂泥で、16 世紀中頃の遺物が出土した。

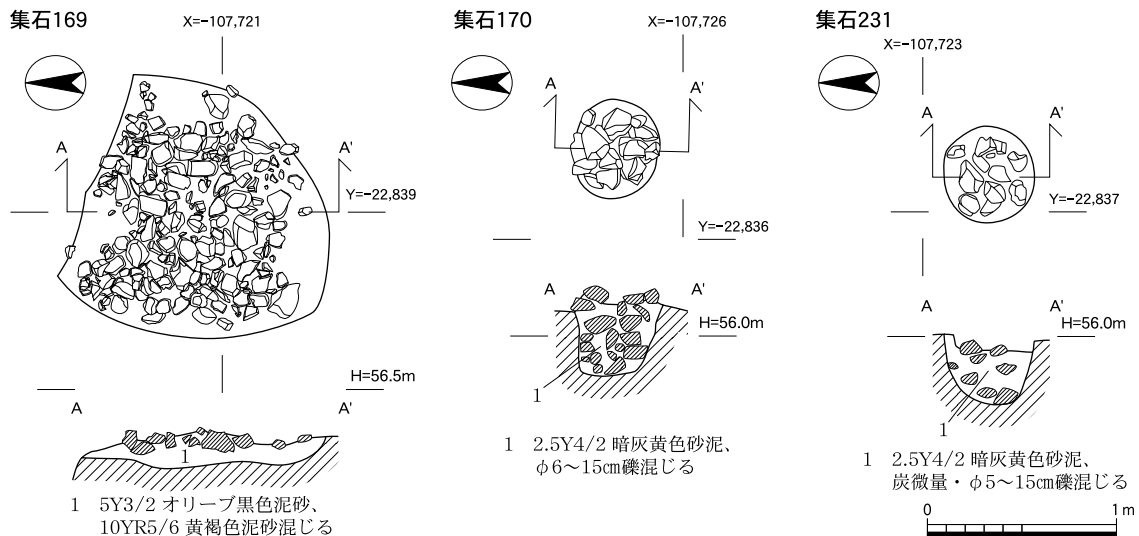
集石 242 調査区中央西壁際で見出した。北・南は攪乱を受け、西側は西壁に延びる。平面形は直径 0.7 m 以上の円形で、深さ 0.4 m 以上である。埋土は 5 ～ 20 cm の石と黒褐色砂泥で、室町時代後期の遺物が出土した。

集石 167 (図 20) 調査区中央で見出した。南端を集石 168 に壊されている。平面形は東



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥、炭少量・φ5～6cm礫多量混じる
- 2 2.5Y4/4 オリブ褐色砂泥、炭・φ2～15cm礫少量混じる
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥、炭が沈澱、φ1cm礫混じる
- 4 2.5Y4/4 オリブ褐色粘質土、炭混じる

図 18 堀 78 実測図 (1 : 50)



- 1 5Y3/2 オリブ黒色泥砂、10YR5/6 黄褐色泥砂混じる

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥、φ6～15cm礫混じる

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥、炭微量・φ5～15cm礫混じる

図 19 集石 169・170・231 実測図 (1 : 40)

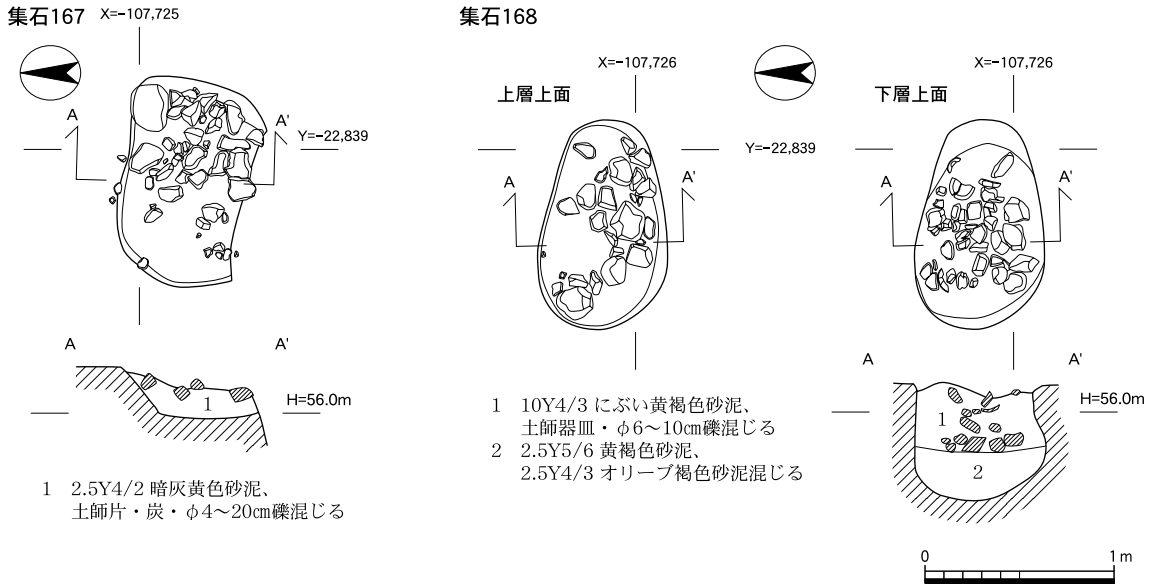


図20 集石167・168実測図(1:40)

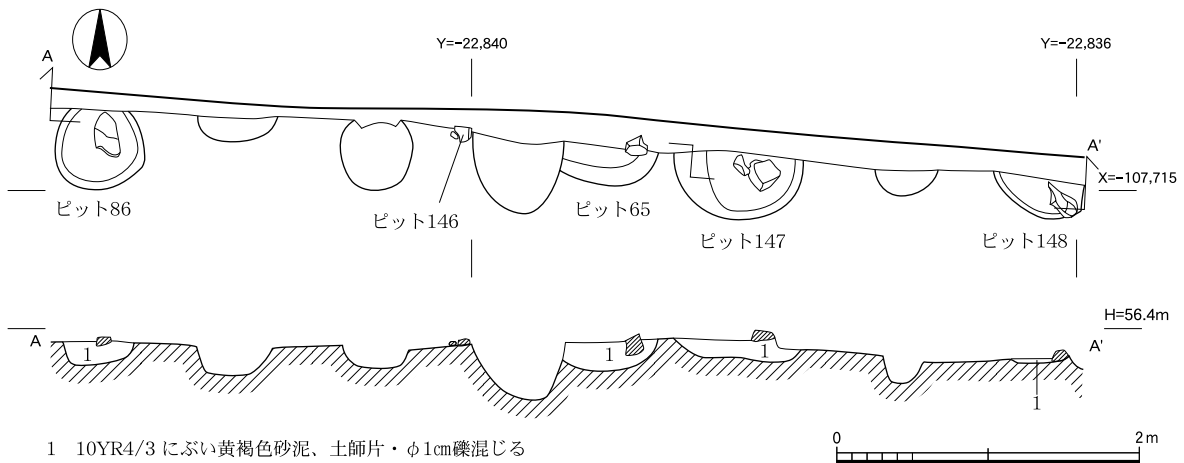


図21 ピット列1実測図(1:50)

西 1.1 m、南北 0.9 m の方形で、深さ 0.25 m である。埋土は 5 ~ 10 cm 大の石と暗灰黄色砂泥で、16 世紀中頃の遺物が出土した。

集石 168 (図 20、図版 4-6) 平面形は長径 1.1 m の楕円形で、深さ 0.65 m である。埋土上層は 10 cm 大の石とにぶい黄褐色砂泥、下層が黄褐色砂泥で、上層部から 16 世紀中頃の土師器皿の完形品が出土しており、埋納遺構の可能性はある。

集石遺構はいずれも水を浸透させる排水施設に関係した遺構と考えられる。

ピット列 1 (図 21) 調査区北壁際で検出した東西方向のピット列である。ピットは直径 0.3 ~ 0.6 m の円形を呈し、0.2 ~ 0.3 m 大の石を根石として据える。柱間は 1.0 ~ 2.2 m と不均等である。埋土はにぶい黄褐色砂泥などで、16 世紀中頃の遺物が出土した

土坑 222 調査区中央部の西壁際で検出した。上部は攪乱を受けている。平面形は南北 1.9 m、東西 1.7 m 以上の方形で、深さは検出面から 0.9 m 以上である。埋土は炭が混じる明黄褐色粘質

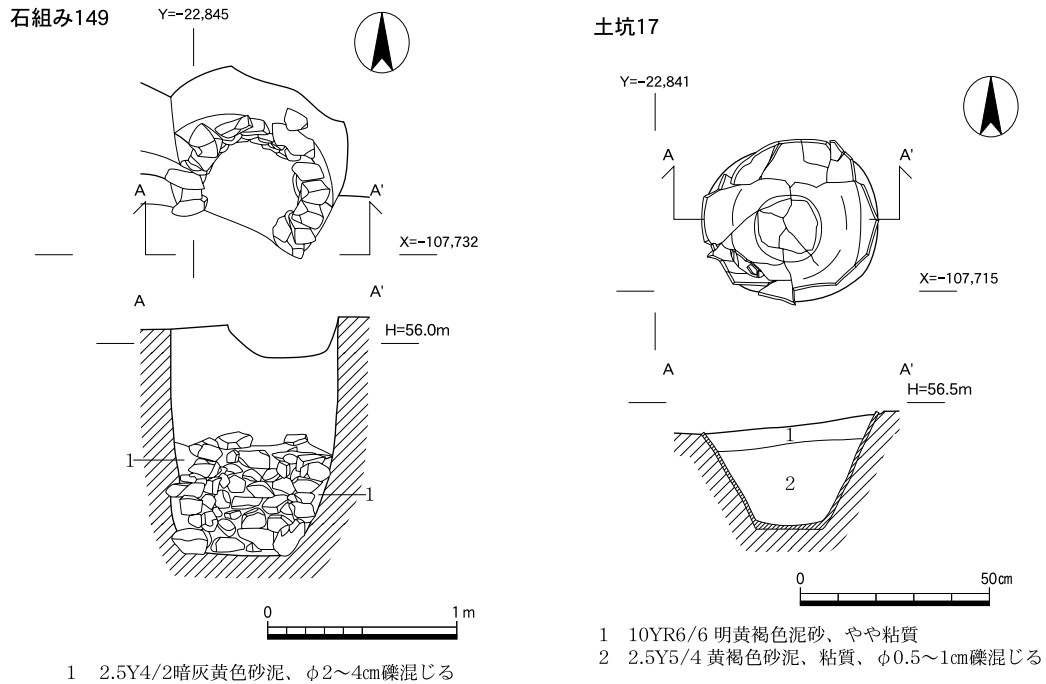


図 22 石組み 149・土坑 17 実測図 (1 : 40, 1 : 20)

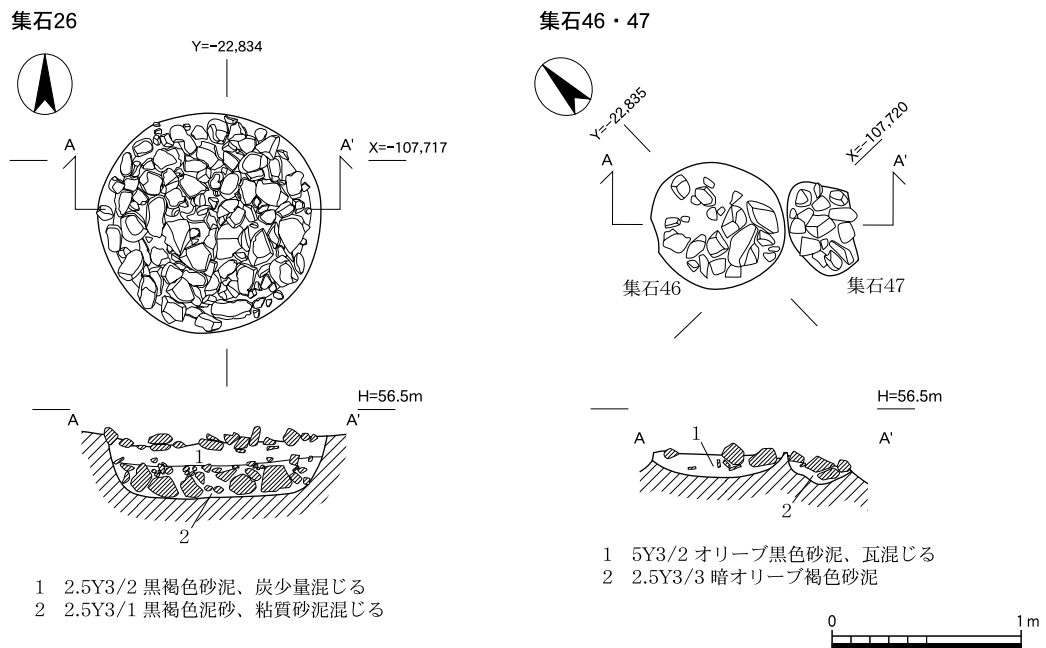


図 23 集石 26・46・47 実測図 (1 : 40)

土で 17 世紀中頃の遺物が出土した。地表面から掘削深が 2.5 m まで達したため、安全を考慮し完掘していない。井戸の可能性もある。

土坑 25 調査区の北西隅で検出した。北側は攪乱を受ける。平面形は東西 0.9 m、南北 0.5 m 以上の円形で、深さ 0.5 m である。埋土は炭が多量に混じる黒褐色砂泥で、18 世紀前半の遺物が出土した。

土坑 164 調査区の北西で検出した。平面形は東西 1.1 m、南北 0.7 m の楕円形で、深さ約 1.3

mである。埋土は炭が混じる灰黄褐色砂泥で、18世紀前半の遺物が出土した。

土坑 25・164 とも埋土内に炭や焼土が含まれる。いずれも18世紀前半代の遺物が出土しており、享保十五年（1730）の「西陣焼け」にかかわる遺構と考えられる。

石組み 149（図 22） 調査区の南西側で検出した。掘形は直径 1.0 mの円形で、内径は 0.45 m、深さは検出面から 1.2 mである。石組みは 10～20 cm大の石材を用いて底部から 6 段ないし 7 段分が残存していた。底は湧水層に達しておらず黄褐色粘質土で止まっていることから、井戸ではなく、便所などの可能性がある。埋土は暗灰黄色砂泥で、18世紀後半の遺物が出土した。

土坑 17（図 22） 調査区北壁際で検出した。上部は攪乱を受けている。平面形は直径 0.45 mの円形で、深さ 0.3 mである。土坑内には丹波焼の甕が据えられている。江戸時代後期の遺構で便所跡と考えられる。

集石 26（図 23） 調査区の北東寄りで検出した。平面形は直径 1.2 mの円形で、深さ 0.4 mである。埋土は 2 層に分かれ、2～5 cm石が充填されている。19世紀前半の遺物が出土した。

集石 46・47（図 23） 集石 26 の南で検出した。平面形は直径 0.5～0.6 mの円形ないし楕円形で、深さ 0.1～0.2 mである。埋土は 0.3～20 cmの石が充填されている。19世紀前半の遺物が出土した。いずれも水を浸透させる排水施設と考えられる。

4. 遺 物

遺物は弥生時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代のものが出土している。土器類が大半で、瓦類は少ない。わずかであるが石製品・木製品・金属製品もある。土器類は、鎌倉時代と室町時代のものが大半を占め、次に江戸時代・平安時代・弥生時代である。瓦類は、平安時代・鎌倉時代・室町時代の瓦と室町時代の埴が出土した。

以下に、出土遺物の概要を報告する。なお、土器の時期と型式名については「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究¹⁾」に準拠した。

(1) 弥生時代の土器類 (図 24)

弥生時代の土器は、遺構に伴うものではなく、土取穴 151 から壺の口縁部 (1) が混入して出土した。磨滅が著しく調整痕は不明である。IV 様式のものである。

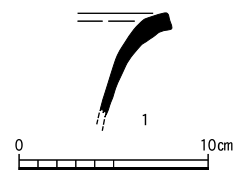


図 24 弥生土器実測図 (1 : 4)

(2) 平安時代前期の土器類 (図 25)

平安時代前期の土器類は、土坑・落込み・溝状遺構から土師器・緑釉陶器・須恵器などが出土した。

土師器皿 A (2) は、内面はナデ調整、外面調整はヘラケズリを施す。京都 I 期新に属する。土坑 135 から出土した。土師器杯 B (3) は、内面はナデ調整、外面はヘラケズリ調整である。緑釉陶器椀 (4) は、内外面ともヘラミガキ調整し、底部は削り出しの平高台である。胎土は軟

表 2 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代	弥生土器	2箱	弥生土器 1点	1箱	
平安時代前期	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器		土師器 3点、須恵器 3点、緑釉陶器 2点、灰釉陶器 1点		
平安時代後期 ～鎌倉時代	土師器、白色土器、須恵器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品、銭貨	57箱	土師器49点、白色土器 1点、須恵器 2点、瓦器 6点、山茶椀 3点、焼締陶器 4点、施釉陶器 1点、輸入陶磁器 27点、石製品 4点、瓦 3点	45箱	
室町時代	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦、埴、石製品、角製品、銭貨	38箱	土師器20点、瓦器 1点、焼締陶器 3点、施釉陶器 5点、輸入陶磁器 8点、埴 4点、石製品 3点、角製品 1点、銭貨 8点	33箱	
江戸時代	土師器、施釉陶器、国産磁器、輸入陶磁器、金属製品、木製品	9箱	土師器20点、施釉陶器10点、国産磁器 3点、輸入陶磁器 2点、木製品 1点	8箱	
合 計		106箱	199点 (19箱)	87箱	0箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より19箱多くなっている。

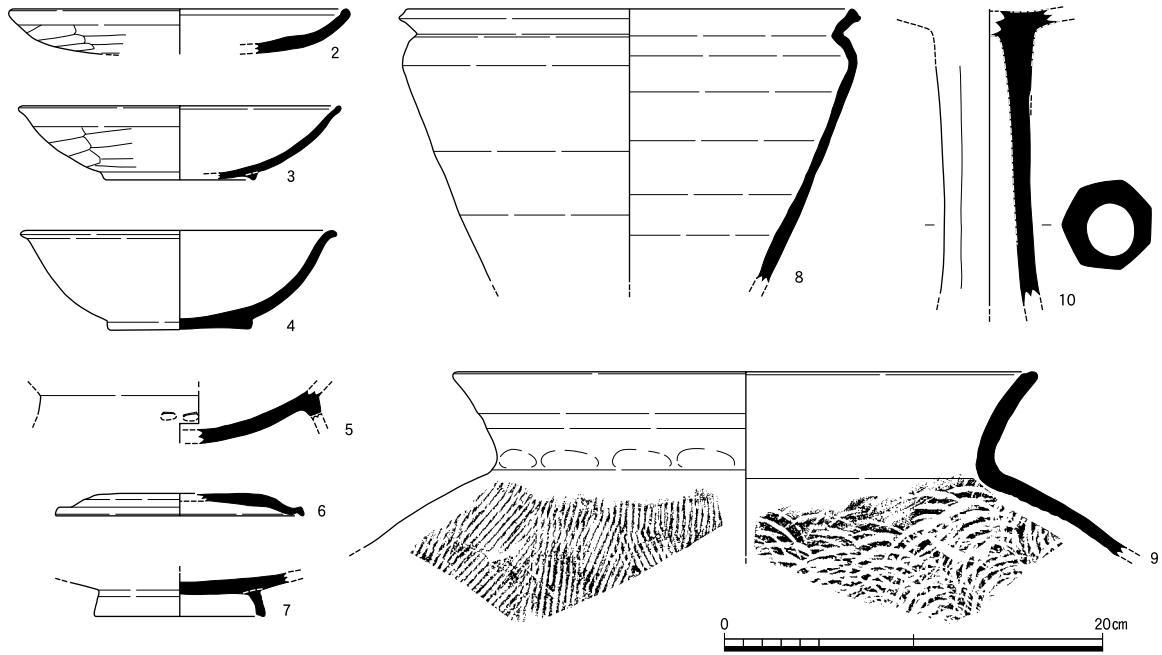


図 25 土坑 135・土坑 221・落込み 302・溝状遺構 310 出土土器実測図 (1 : 4)

質で灰白色を呈する。3は京都Ⅱ期中、4は京都Ⅰ期新～Ⅱ期古に属する。土坑 221 から出土した。香炉 (5) は、底部・体部・脚部内外面は回転ナデ、内外面に刷毛で薄く浅黄緑色の釉を施す。脚に透しがある。京都Ⅰ期新に属する。落込み 302 から出土した。須恵器杯 B 蓋 (6) は、つまみが欠損する。天井部は低く平坦で口縁部付近で下方にまげられ、外傾して端部にいたる。灰釉陶器皿 (7) は、外面は回転ナデ、内面に厚く施釉される。須恵器鉢 (8) は、内外面とも回転ナデ。須恵器甕 (9) は、頸部から口縁部である。口縁部に凹みが巡る。肩部外面は平行タタキ、内面は同心円タタキ、口縁部内外面は回転ナデである。土師器高杯の脚部 (10) は、ヘラケズリし、8 角形を呈する。6～10 は京都Ⅰ期新に属する。溝状遺構 310 から出土した。

(3) 平安時代後期から鎌倉時代の土器類

平安時代後期から鎌倉時代前期と中期の遺構からまとめて出土した。一括性の高い遺物のため、出土遺構ごとに報告する。

土坑 268 出土土器 (図 26・27、図版 5) 土師器・須恵器・瓦器・山茶碗・焼締陶器・輸入陶磁器・石製品など遺物が出土した。二次焼成を受け、釉調が変色しているものがある。この遺構は輸入陶磁器の比率が高い。土師器には皿 N (11～14) がある。14 は器高が高く、内湾ぎみである。形状が白色系皿 S に近いが、胎土はにぶい橙～にぶい黄橙色を呈する。瓦器には小碗 (15)、山茶碗には小碗 (16・17) がある。輸入陶磁器には、白磁碗 (18～20)・青磁鉢 (21)・褐釉陶器四耳壺 (22)・褐釉陶器壺 (23・24)・施釉陶器壺 (25)・白磁四耳壺 (26)・施釉陶器四耳壺 (27)・黄釉陶器盤 (28・29)・施釉陶器鉢 (30)・焼締陶器鉢 (31) がある。21 は口径が 24.3 cm で大振りである。23 には凹線、24 には凸線が肩部を巡る。25 は砲弾型の形状で、耳が付かないタイプである。内外面に灰釉を施す。口縁部と底部の 3 箇所に目跡が付く。27 は肩部には彫り込みの文

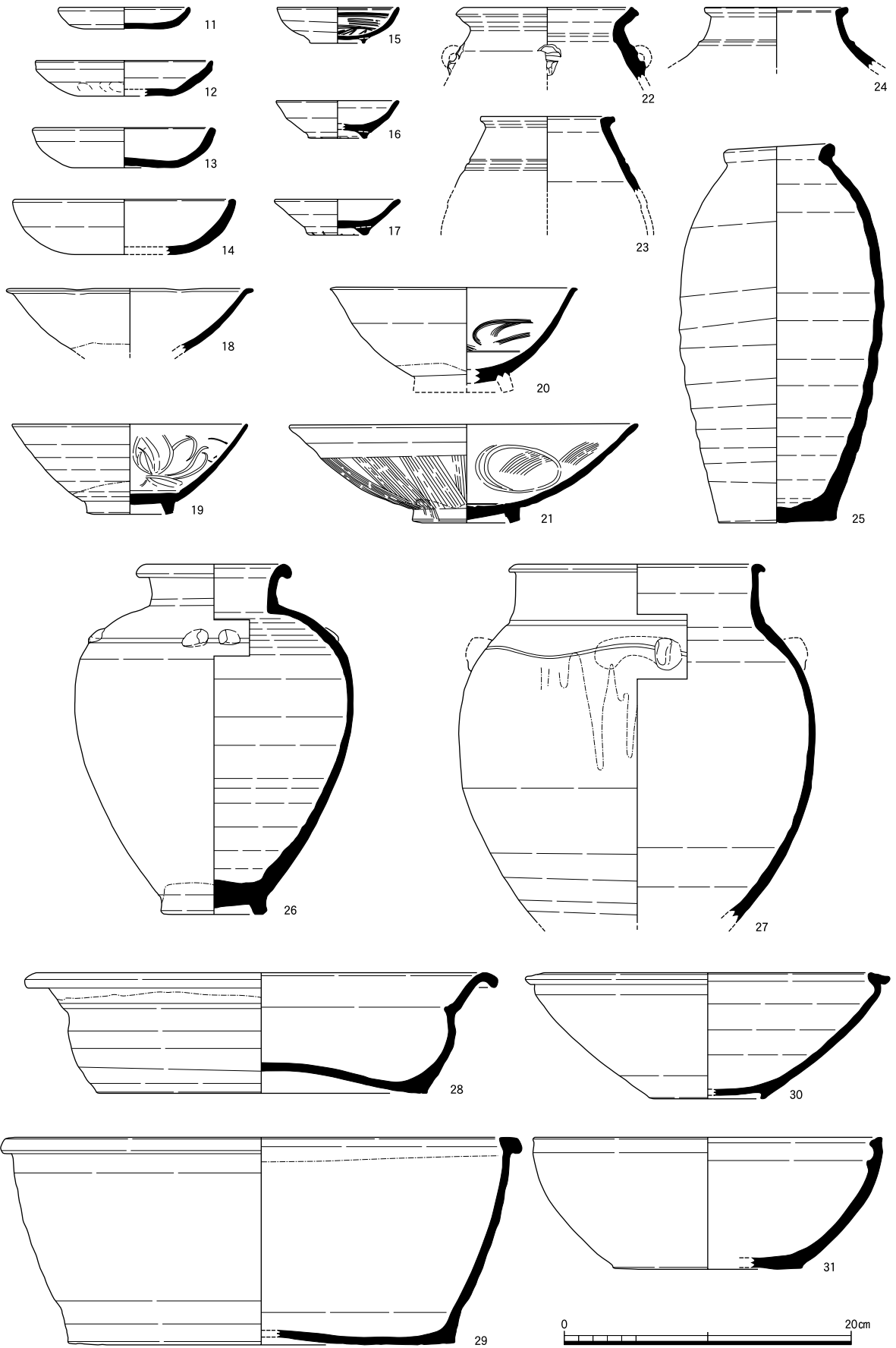


图 26 土坑 268 出土土器实测图 1 (1 : 4)

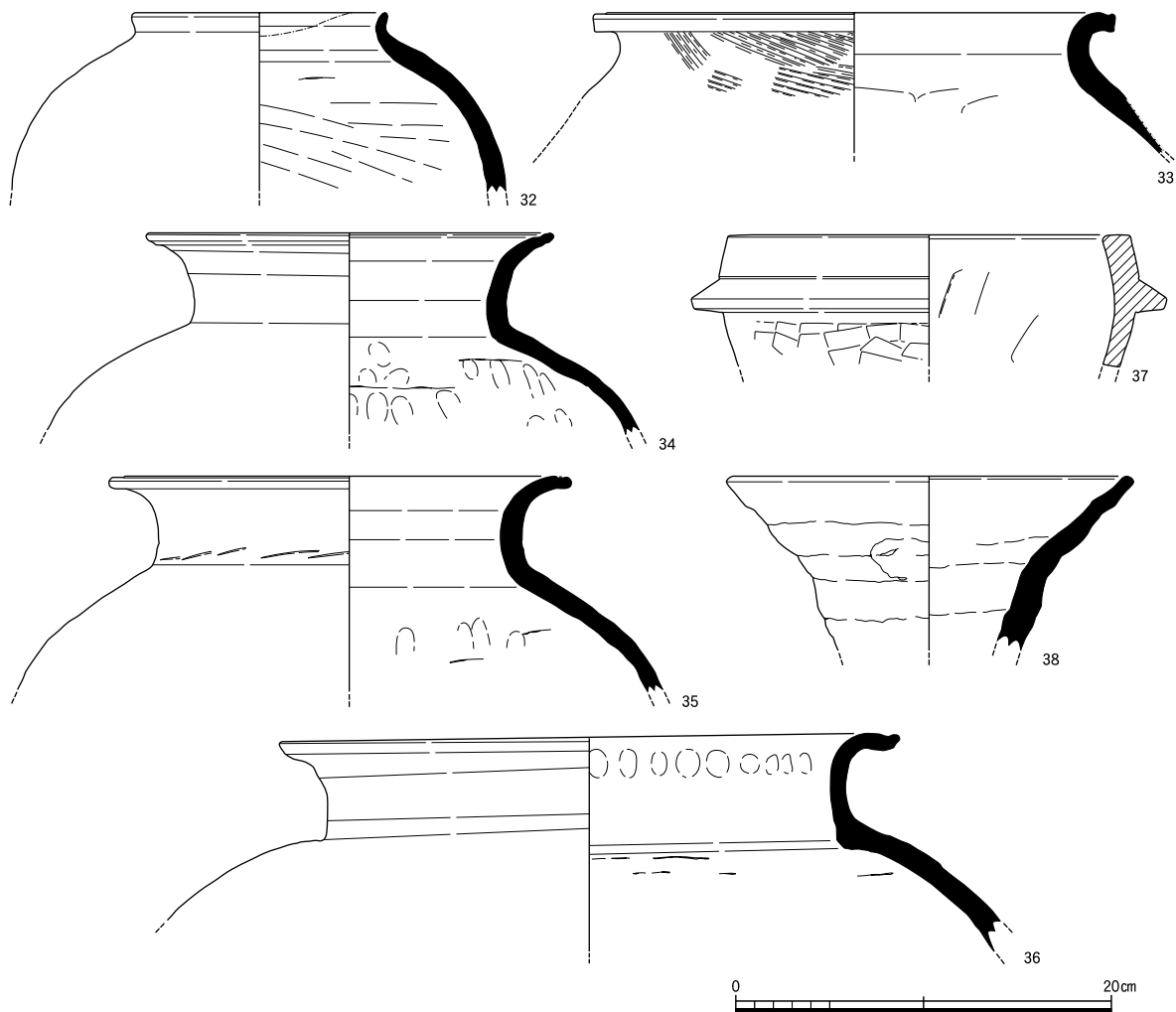


図 27 土坑 268 出土土器実測図 2 (1 : 4)

様が巡る。内外面に灰釉を施して、さらに肩から灰釉を流し掛けする。28 は体部中位から屈曲させ外方し、口縁は鋸状を呈する。内面・見込みは化粧土を施し、褐釉で草花文様を描く。29 は器高が 14.5 cm で深いタイプである。桶と思われる。30 は碁笥底で、内外面とも薄い暗黄緑釉を施す。口縁部は「八」字形に開く。31 は胎土が砂粒を含み、暗赤褐色を呈す。口縁内面には 2 条の突起が巡る。口縁部の内外面は横ナデ、外面体部ナデ調整。内面中位以下は使用で磨滅する。京域では報告例がない。灰釉陶器短頸壺 (32) は、口縁部から肩部にかけて灰釉を施す。東海系。須恵器甕 (33) は、外面口縁部から体部は平行タタキ、内面は横ナデ調整。焼成は悪い。焼締陶器には常滑甕 (34 ~ 36) がある。常滑編年では 1b 型式に属する。土師器鉢 (38) は口径 20.4 cm、体部中位から口縁部へ大きく開く。内面と外面口縁部はナデ調整、外面下部はオサエ。粘土の積み上げ痕が残る。その他、石製品だが滑石製石鍋 (37) がある。京都 V 期新 ~ VI 期古に属する。

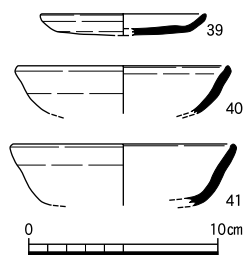


図 28 地下式倉庫 288 出土土器実測図 (1 : 4)

地下式倉庫 288 出土土器 (図 28) 床面で少量の土器が出土したのみである。39 ~ 41 は土師器皿 N である。京都 VI 期古に属する。

ピット 180 出土土器 (図 29) 完形を含む土師器皿 (42 ~ 50) の

みが出土した。42・45・49は平安京城主流の土師器皿であるが、43・44・46～48・50は乙訓地域で見られる土師器皿の特徴を現している。底部が扁平で、口縁端部は丸くおさまり、器高が低いものが多い。楠葉から供給されたとされる。京都VI期中～新に属する。

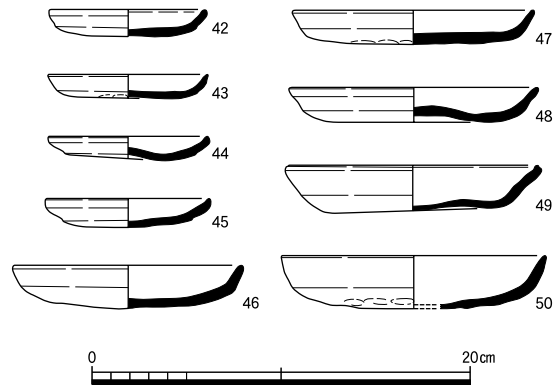


図29 ピット180出土土器実測図(1:4)

溝144出土土器(図30) 土師器・瓦器・焼締陶器・輸入陶磁器などが出土した。大半が土師器である。土師器には皿N(51～63)・皿S(64・65)がある。土師器皿は外反気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめるものが見られる。

輸入陶磁器には白磁椀(66～68)・青磁椀(69・70)がある。焼締陶器は常滑産の甕(71)で、常滑の編年では6a型式に属する。京都VI期中～新に属する。

土取穴211出土土器(図31、図版6) 土師器・白色土器・須恵器・瓦器・輸入陶磁器などが出土した。土師器には皿Sc(72)・皿N(73～76)・皿S(77・78)・羽釜(89・90)がある。白色土器には皿(79)がある。瓦器には内面平底部に花形の暗文を施す椀(80)・小さい三角形の高台が付く椀(81)・羽釜(87)・鍋(88)がある。輸入陶磁器には青磁皿(82)・青磁椀(83)・白磁皿(84)・白磁四耳壺(85)・緑釉陶器盤(86)がある。82は平底高台で、内面には櫛描文を施す。83は外面に蓮弁の彫り込みを施す。84は平底で、口禿げ、内面には型で文様を施す。85の肩部は欠損しているが、形状から四耳壺と思われる。須恵器には東播系の甕(92)がある。その他、石製品だが滑石製の石鍋(91)がある。京都VI期中～新に属す。

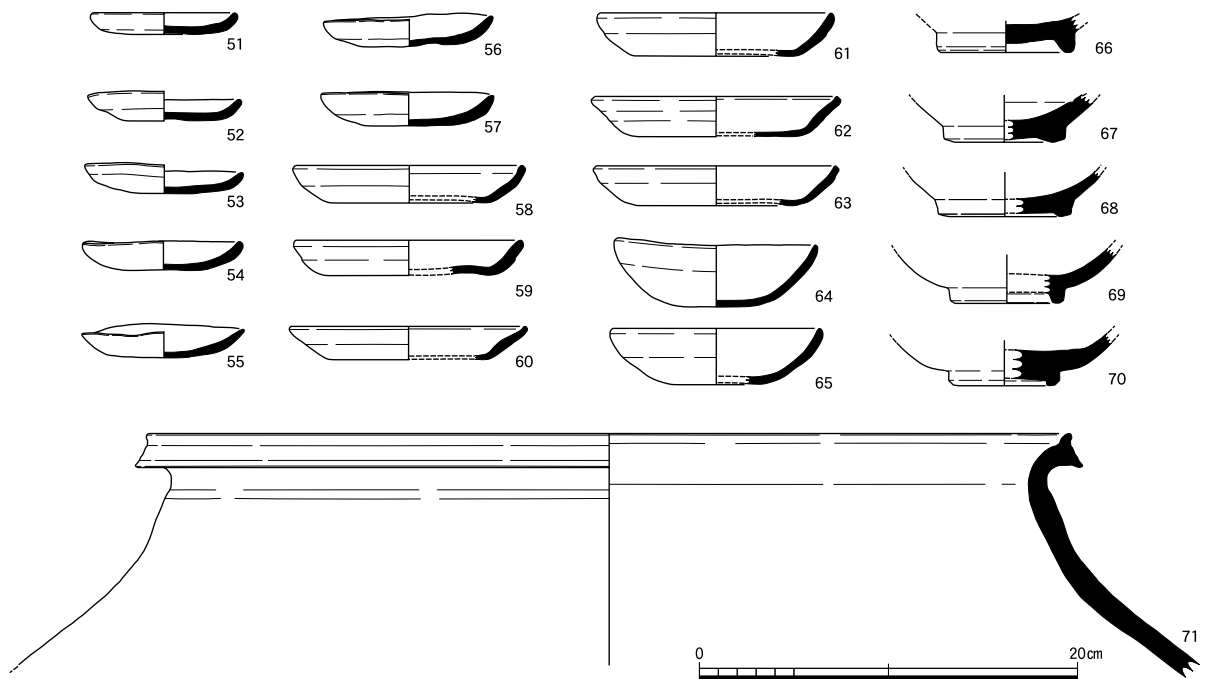


図30 溝144出土土器実測図(1:4)

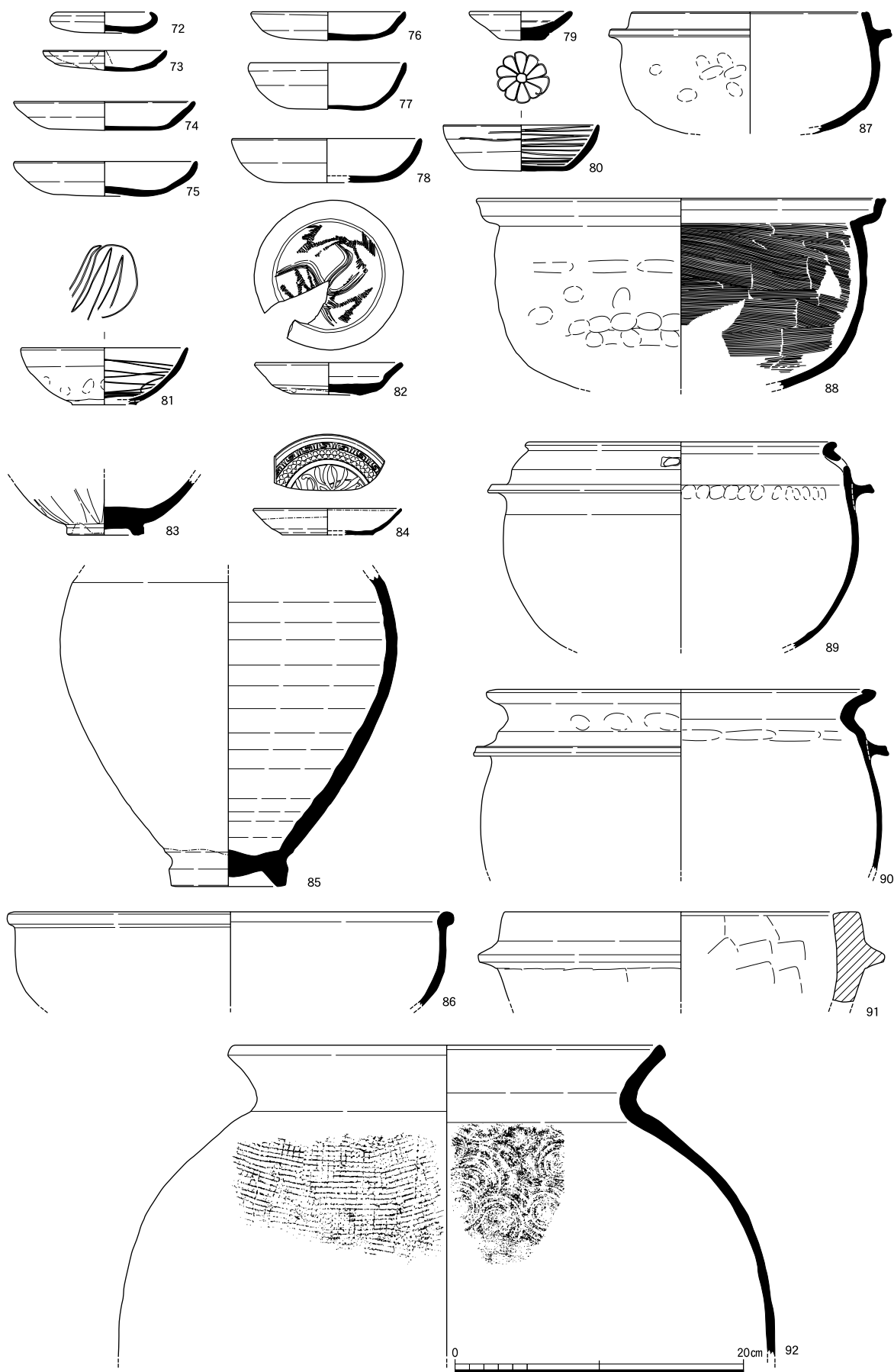


图 31 土取穴 211 出土土器实测图 (1 : 4)

土取穴 255 出土土器（図 32、図版 7）土師器・瓦器・山茶碗・焼締陶器・輸入陶磁器などが出土した。土師器には皿 N（93～96）・皿 S（97～99）・鉢（100）がある。96 は底部に 2 箇所、内面から穿孔している。用途は不明である。100 は皿 S に脚を付けたもので、外面底部に線刻が見られるが不明。内面には磨滅痕があり、播鉢として使用されたと思われる。山茶碗には小碗（101）がある。輸入陶磁器には白磁皿（102）・黄釉鉄彩盤（103・104）がある。102 は平底で、内面には文様がない。瓦器にはミニチュア羽釜（105）がある。口径 4.3 cm で、三足が付く。京都 VI 期新に属する。

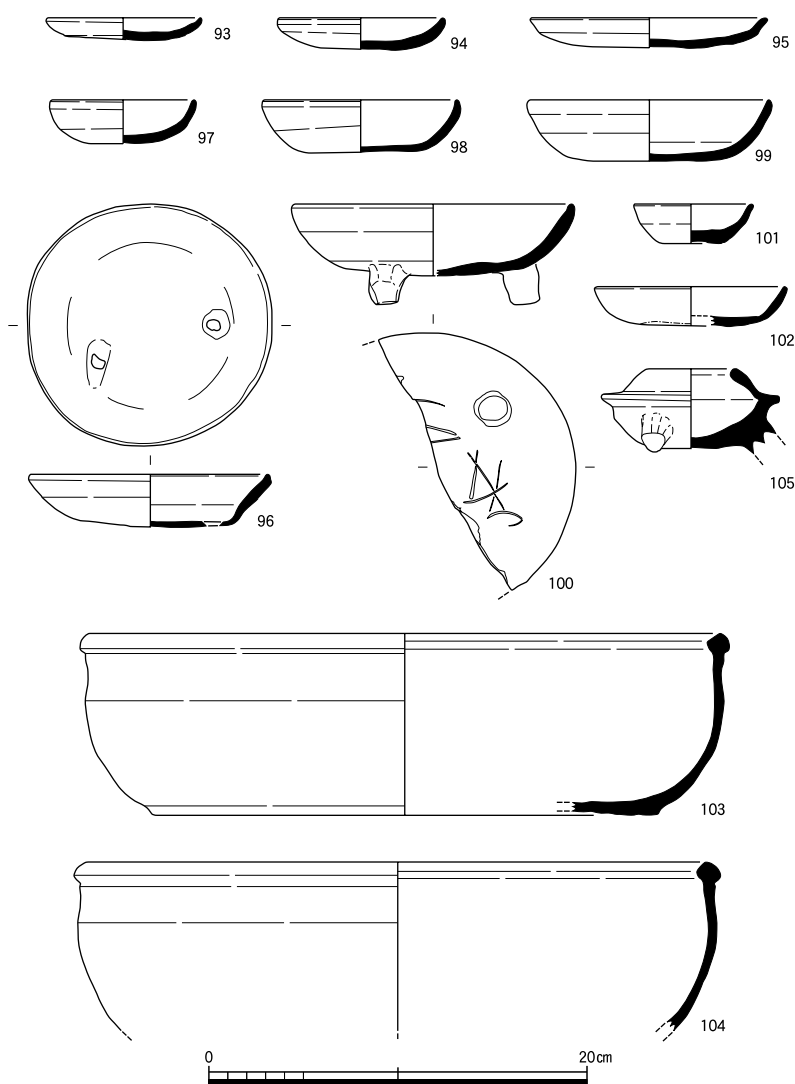


図 32 土取穴 255 出土土器実測図（1：4）

（4）室町時代の土器類

室町時代中期から後期の遺物は、堀・土取穴・溝・土坑などの遺構から土師器・瓦器・焼締陶器・施釉陶器・輸入陶磁器・瓦・埴・銭貨などが出土した。特に土取穴から多量の土師器とともに茶道具の天目碗・瓦器風炉・火鉢・香炉・国産茶入・輸入茶入・角製茶入蓋・輸入青磁・白磁などが出土している。前節と同様に一括性が高いため、以下で出土遺構ごとに報告する。

土取穴 151 出土土器（図 33）土師器・瓦器・焼締陶器・施釉陶器・輸入陶磁器などが出土した。二次焼成を受け、釉薬調が変色や白濁しているものがある。土師器には皿 Sh（106～109）・皿 S（110～113）がある。施釉陶器には瀬戸美濃の天目碗（114）・小壺（119）・香炉（122）・燭台杯部（123）・燭台脚部（124）がある。114 の胎土は密で堅く、焼成も良好で、にぶい黄橙色を呈する。高台には糸切り痕が残る。鉄釉を掛ける。119 は口径 2.3 cm、器高 2.9 cm。鉄釉を施し、底部に糸切り痕を残す。124 は臨川寺で出土報告がある。²⁾ 輸入陶磁器には天目碗（115・116）・茶入（117・

118)・白磁皿 (120)・龍泉窯青磁皿 (121)・焼締陶器茶壺 (127) がある。115 の胎土は密で堅く、白色粒子を含み、黄灰色を呈する。鉄釉を施す。116 の胎土は密で黒色粒子を含み、黄灰色を呈する。厚い鉄釉を施され、表面には、建窯の禾目天目の特徴である茶色の筋が現れている。117 の胎土は密で黒色・白色の粒子を含み、褐灰色を呈する。鉄釉を施す。「茄子形」か「尻膨形」の肩部と

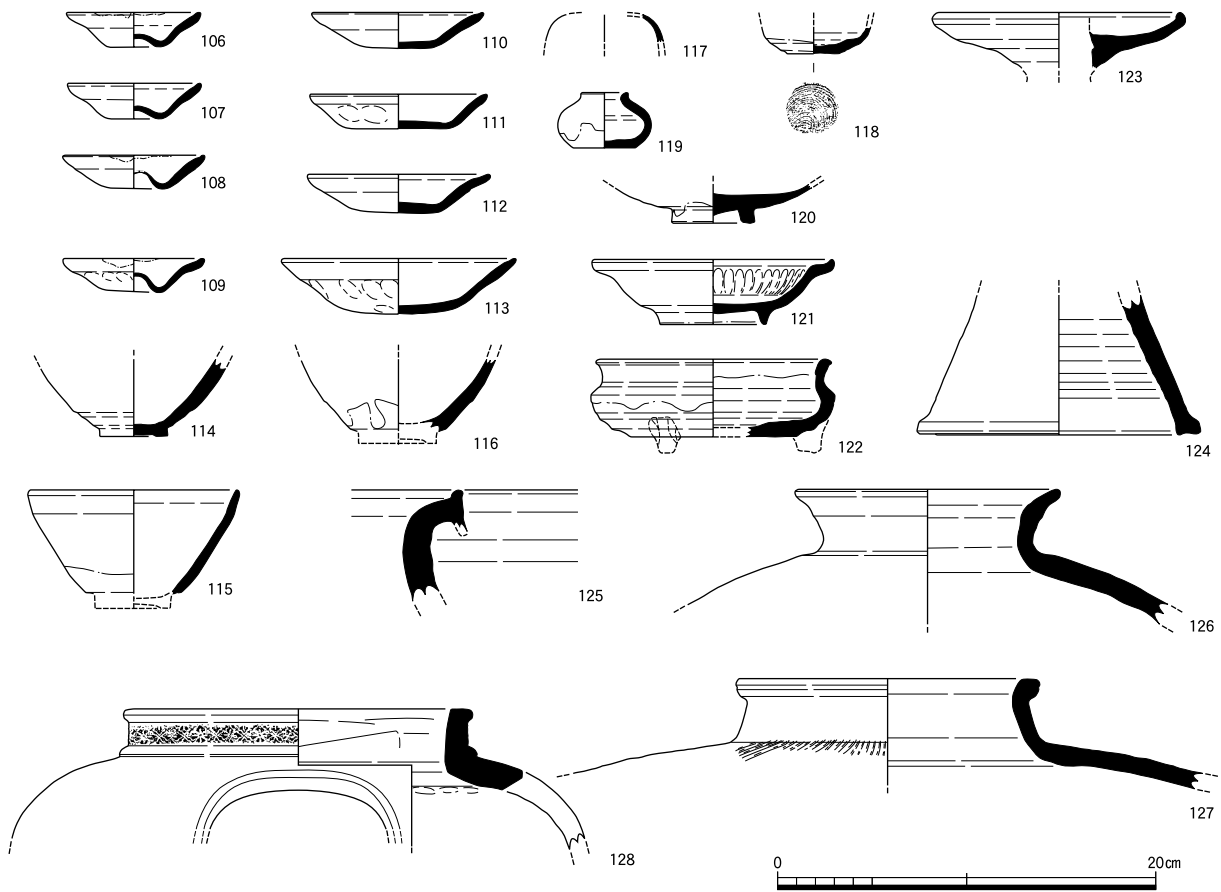


図 33 土取穴 151 出土土器実測図 (1 : 4)

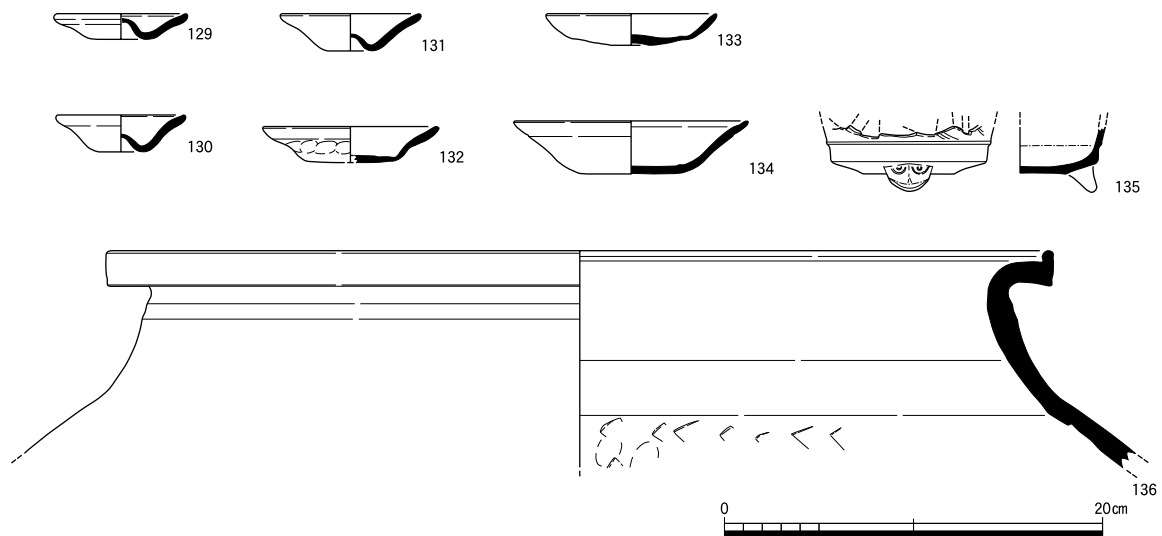


図 34 堀 78 出土土器実測図 (1 : 4)

思われる。118の体部は膨らみを持つ。胎土は緻密で、黒色・白色粒子を含む。底部際はナデ調整で、鉄釉を施す。121は内面側に蓮弁が彫られる。127は頸部際には平行タタキ、体部は堅密で、長石・チャート・黒色粒子を含み灰白色を呈する。外面口縁部から体部まで白化粧を施し、灰釉は内面と外面に施す。焼締陶器には常滑甕(125・126)があり、常滑の編年では4・

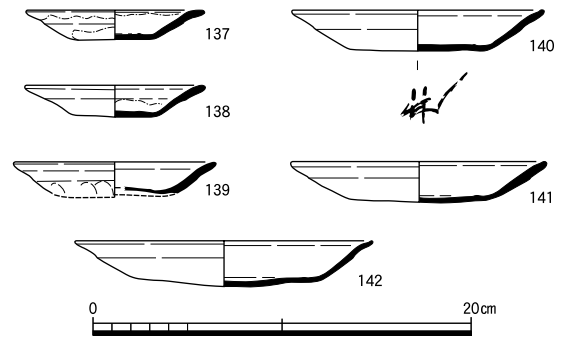


図35 集石168出土土器実測図(1:4)

6a型式に属する。瓦器には風炉(128)がある。湾曲する体部で、口縁から頸部に2条の凸線が巡り、凸線間には花菱文を捺印される。体部には大・小の円窓が穿たれる。京都IX期中に属する。

堀78出土土器(図34、図版7)土師器・焼締陶器・輸入陶磁器などが出土した。土師器には皿Sh(129~131)・皿N(132・133)・皿S(134)がある。輸入陶磁器には青白磁香炉(135)と他に白磁皿・青磁椀などがある。135は体部に透しがあり、型成形の脚が付く。体部に透しが付く香炉は報告例がない。焼締陶器には常滑甕(136)があり、常滑の編年では5型式に属する。京都IX期中に属する。

集石168出土土器(図35)出土遺物は完形品を含む土師器皿のみである。土師器皿S(137~142)は、137・138は9.5cm前後、139~141は10.6~13.5cm、142は15.6cmである。140の底部外面には墨書がみられるが、判読不明である。京都X期中に属する。

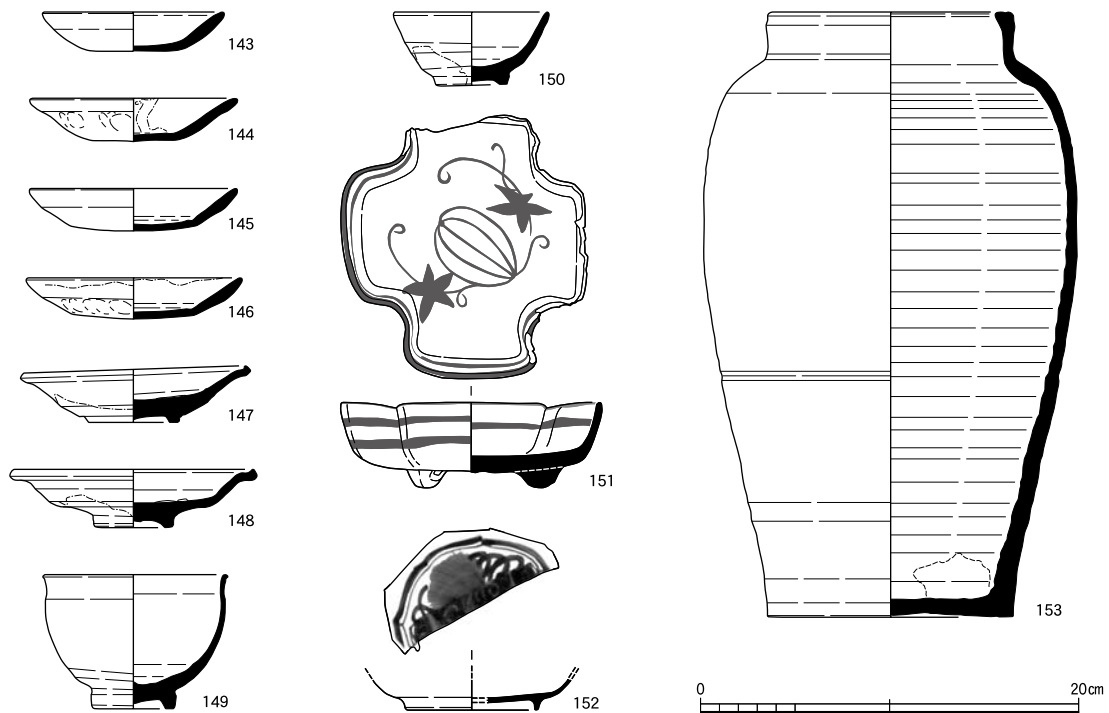


図36 土坑222出土土器実測図(1:4)

(5) 江戸時代の土器類

江戸時代の土器は、土坑・井戸・石組遺構などの遺構から土師器・施釉陶器・染付・輸入陶磁器などが出土した。以下、出土遺構ごとに報告する。

土坑 222 出土土器 (図 36、図版 7) 土師器・施釉陶器・輸入陶磁器などが出土した。土師器には皿 S (143 ~ 146) がある。皿 S は、口縁部の端部がまだ端面を持つものと丸みをもつものが混在している。底部も丸みを持つものもある。施釉陶器には唐津皿 (147・148)・椀 (149)・小杯 (150)、志野織部向付 (151) がある。147 は透明釉、148 は藁灰釉である。ともに見込みには砂目積みの痕跡が残る。149 は天目椀の器形で器壁が薄く、丸みがある体部で、口縁部には小さな玉縁を持つ。体部全面に透明釉を施す。151 は十字形の内型造りで、内外側面に鉄釉で横縞を描き、見込みには瓜文を描く。輸入陶磁器には染付皿 (152)・焼締陶器壺 (153) がある。153 は内面にロクロ巻き上げ成形の痕跡が残る。胎土は白砂粒を含み、密で堅緻で灰赤色を呈す。外面体部中位に凹線が巡る。「南蛮切溜花入」である。京都 XI 期新に属する。

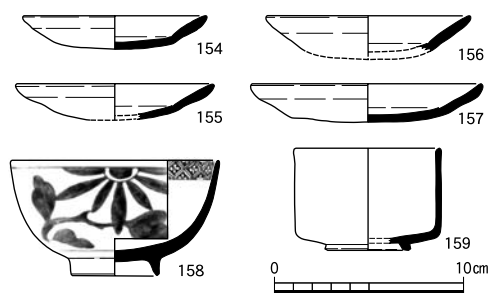


図 37 土坑 25 出土土器実測図 (1 : 4)

土坑 25 出土土器 (図 37、図版 8) 土師器・施釉陶器・伊万里染付などが出土した。土師器には皿 S (154 ~ 157) がある。いずれも凹線状圏線が、底部から体部への立ち上がり部より上へ少し上った位置になる。圏線も先が丸く棒状の工具で付加されている。伊万里には染付の椀 (158) がある。施釉陶器筒椀 (159) は京焼系である。京都 XII 期新 ~ 期古に属する。

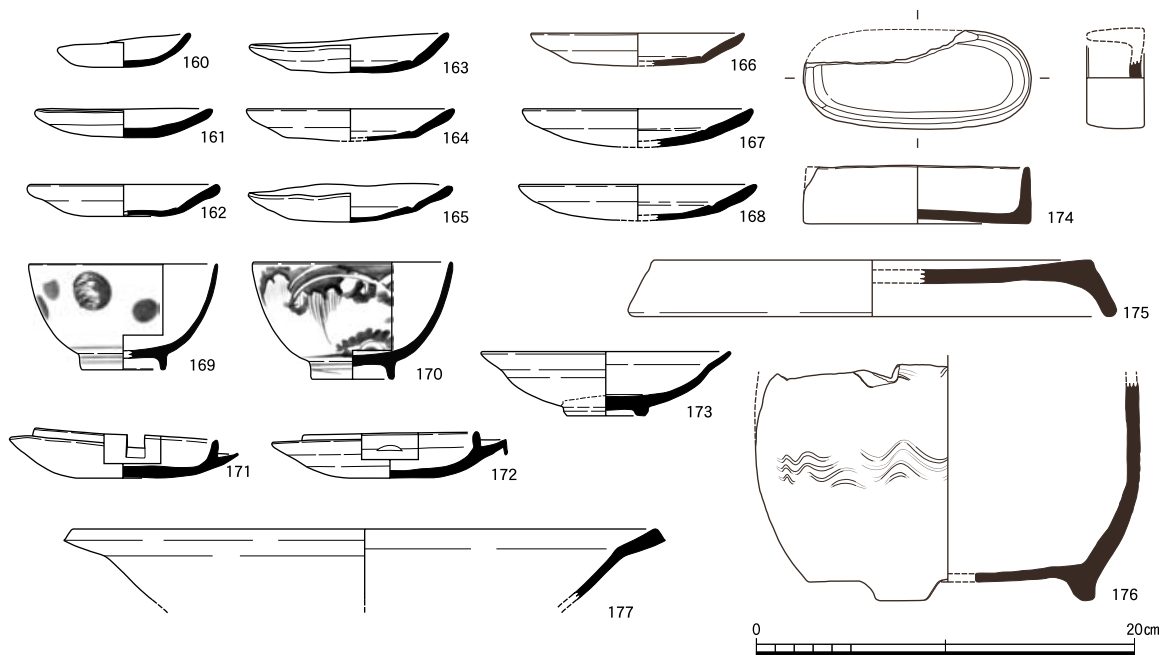


図 38 土坑 164 出土土器実測図 (1 : 4)

土坑 164 出土土器 (図 37、図版 8) 土師器・施釉陶器・伊万里染付などが出土した。土師器には皿 Nr (160)・皿 Sb (161)・皿 S (162 ~ 168)・火消壺蓋 (175)・火消壺 (176)・焙烙鍋 (177) がある。皿 S は凹線状圏線が体部側に上がり、屈曲するものが見られる。176 は底部中央に孔を穿れており、植木鉢に転用されたと思われる。伊万里には染付椀 (169・170) がある。施釉陶器には鬢水入れ (174)・灯明皿 (171・172)・唐津の皿 (173) がある。京都 期古に属する。

(6) 瓦類

瓦は平安時代後期から鎌倉時代前期、室町時代中期から後期の遺構から主に出土した。そのほとんどが丸瓦と平瓦で、軒瓦は数点しか出土していない。塼は室町時代中期の遺構から多量に出土した。その中で図化できたものを報告した。

瓦(図 39) 178 は均整唐草文軒平瓦で、唐草文を 3 回転半する。周辺には圏線が巡る。堀 78 出土。179 は丸瓦で、玉縁をもつ。凸面に縄目タタキを施す。土坑 268 出土。180 は平瓦で、凸面に縄目タタキを施す。二次焼成を受け変形している。土坑 268 出土。

磚(図 40) 181 は残存長一辺 10.4 cm、厚さ 4.1 cm。182 は残存長一辺 12.6 cm、厚さ 4.2 cm。183 は残存長一辺 13.2 cm、厚さ 4.0 cm。184 は残存長一辺 9.2 cm、厚さ 2.8 cm。成形・調整はいずれも同じで、表面はナデで丁寧調整される。裏面はナデ調整されるが表面より雑である。側面はヘラケズリやナデで平坦に調整されている。土坑 249 出土。

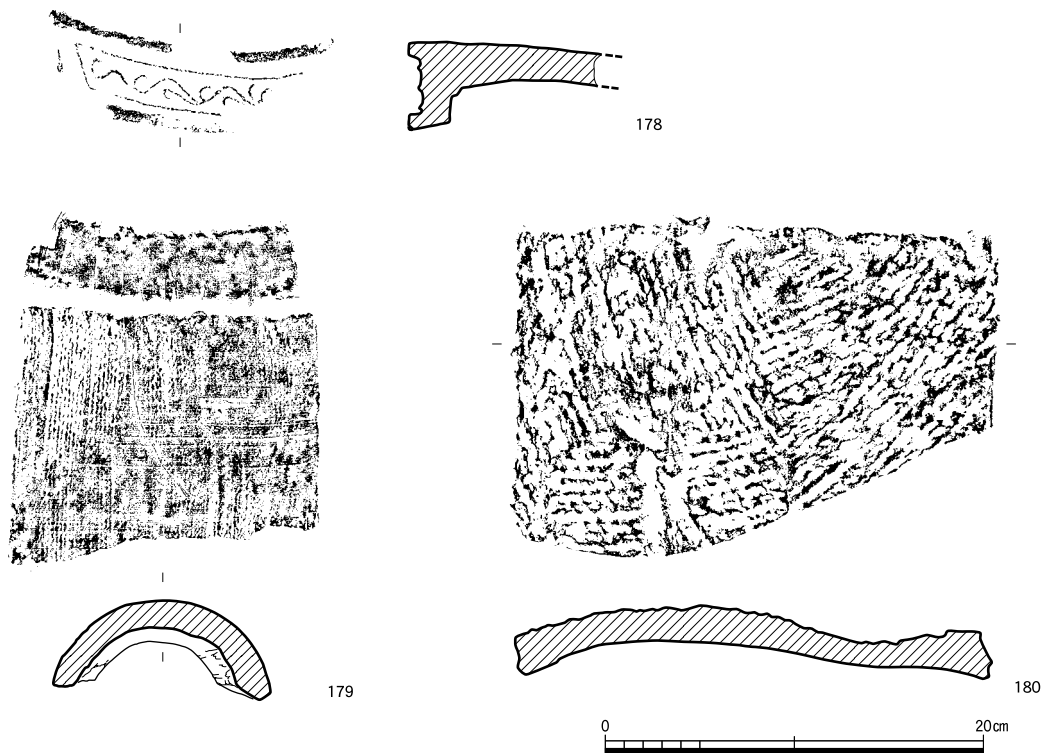


図 39 瓦拓影・実測図 (1 : 4)

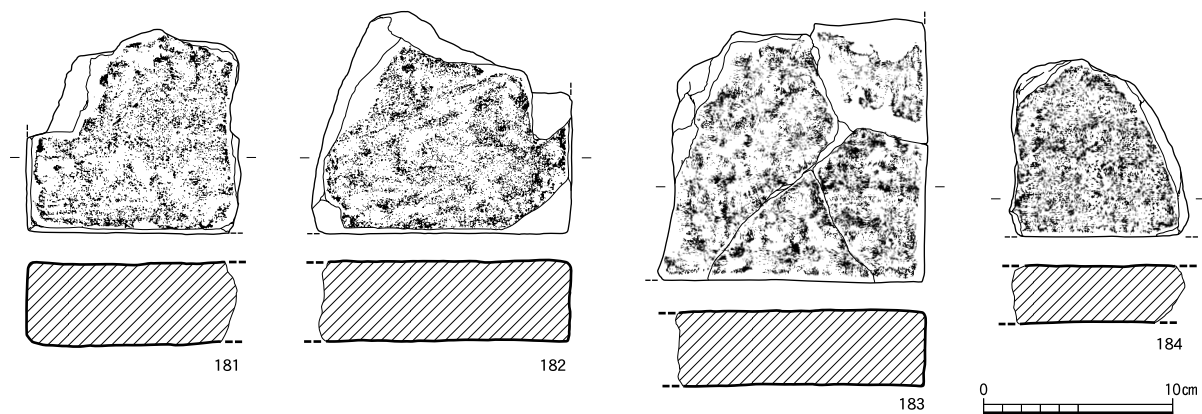


図40 埴拓影・実測図（1：4）

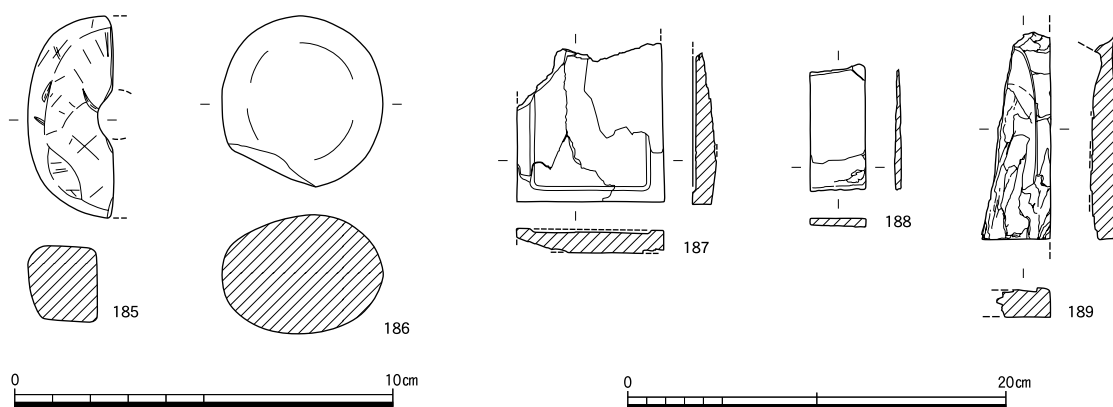


図41 石製品実測図（1：2、1：4）

(7) その他の遺物

石製品（図41、図版8）185は滑石製の紡錘車である。半分残存する。径5.2cm、孔は欠損して不明である。表には短い凹線が不規則に彫られている。裏面は平坦である。ピット269出土。

186は玉石で砂岩製。一部欠損する。径4.1cm。楕円形を呈する。祭祀や祭りなどに使用されたものか、用途は不明である。土取穴255出土。

187～189は硯である。石材は頁岩～粘板岩と思われる。全形がわかるものはない。色調は187と189は暗灰色、188は赤褐色を呈する。土取穴151出土。

角製品（図42・43、図版8）190は茶入蓋である。二次焼成で変形している。径2.2cm、厚み2～3mm、重さ1.197gである。つまみ

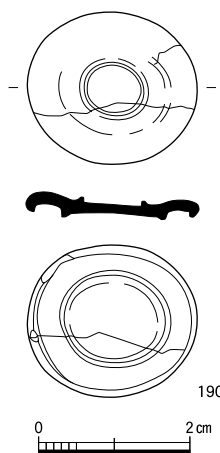
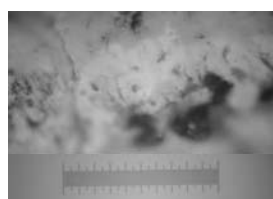
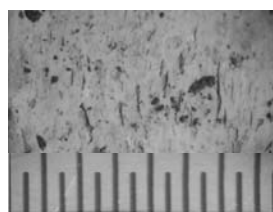


図42 角製品実測図（1：1）



破断面変



内面変

図43 角製品顕微鏡写真

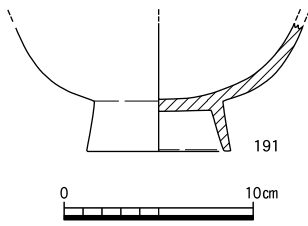


図 44 漆器実測図 (1 : 4)

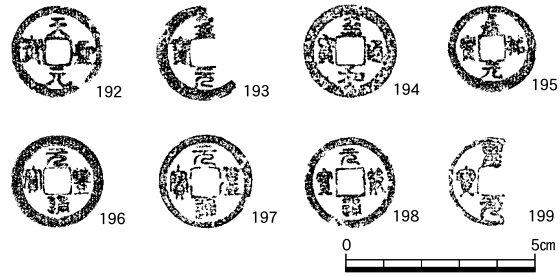


図 45 銭貨拓影 (1 : 2)

部分は欠損している。胎土は灰白色を呈し、ややもろくなっている。顕微鏡観察で角の特徴であるハバース管が見られることから角製であることが確認された。土取穴 151 出土。

木製品 (図 44) 191 は漆器の椀である。上部は欠損している。高台は高く、体部は底部から開きぎみ湾曲する。内外面ともにロクロでケズリ成形。全体に薄く作られている。器壁は 4～6 mm、高台は径 7.6 cm、高さ 2.1 cm である。内外面に赤漆を施す。土坑 222 出土。

銭貨 (図 45、図版 8) 192 は天聖元寶、193 は景祐元寶、194 は至和通寶、195 は嘉祐元寶、196・197 は元豊通寶、198 は元符通寶、199 は聖宋元寶で、いずれも北宋銭である。192～198 は堀 78 出土。199 は土坑 222 出土。

註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土した土器の編年的研究」『研究紀要』第 3 号 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1996 年
- 2) 吉川義彦・石井 望・中村 敦『臨川寺旧境内遺跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 IV (財)京都市埋蔵文化財研究所 1978 年

参考文献

- 中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 1995 年
- 山本信夫「太宰府条坊跡 XV - 陶磁器分類 -」『太宰府市の文化財 第 49 集』太宰府市教育委員会 2000 年
- 丸川義広・加納敬二『平安京左京北辺四坊』第 1 分冊 (公家町形成前)』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 第 22 冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2004 年
- 『北山・東山文化の華 相国寺 金閣 銀閣 名宝展』根津美術館 1995 年
- 『南蛮・島物 - 南海請来の茶陶 -』根津美術館 1993 年

5. ま と め

今回の調査で平安時代前期から江戸時代までの遺構が、良好な状態で遺存していることが確認できた。

平安時代前期には、建物を構成する遺構は検出されていないが、落込み・溝状遺構・土坑などの遺構を検出した。このことは、大宮大路未沿いに雲林院や紫野齋院などが創設された9世紀代に、調査地周辺でも何らかの開発がなされたことを示唆する。

平安時代後期から鎌倉時代になると、地下式倉庫・土坑・ピット・溝・土取穴など多数の遺構が検出されており、宅地として利用されたと考えられる。

室町時代は、ピット・溝・土坑・土取穴・堀・井戸・集石など、遺構の密度は高い。特に、応仁・文明の乱（1467～1477）後の遺構が多い。応仁・文明の乱の後に、この周辺に織物職人が移住したことを窺わせる史料が示すとおり、荒廃した地を再開発し、活発な土地利用があったことを窺わせる。

江戸時代になると、室町時代では1基しか検出されていない井戸が重複して多数検出されるのが特徴的である。当地に町屋が構成されていたと考えられる。

遺物については、鎌倉時代・室町時代の遺物が全体の9割を占め、そのほとんどが土取穴から出土したものである。これらは、二次焼成を受けており、応仁・文明の乱の被災後に廃棄したものと思われる。

出土遺物の特徴としては、平安時代後期から鎌倉時代前期の輸入陶磁器の出土比率が高く、平安京城でも出土例のないものが見られる。

室町時代では土取穴151を中心に、茶道具の天目椀・茶入・茶入蓋・茶壺・香炉・風炉・燭台・花瓶など輸入陶磁器が多いことが上げられる。また、土器類以外では、埴が多量に出土しており、遺構の性格を考える上で重要である。

江戸時代の遺物は、江戸時代前期の土坑222から少量ながら茶陶や輸入陶磁器が出土している。

また、弥生土器が出土しており、調査地周辺に遺構が遺存している可能性がある。

当地は、平安時代から近世に至る遺構が複雑に重なりあっており、遺構や遺物の状況は平安京左京城の様相と類似している。ここは室町殿の設置以降形成された「上京」に該当するものの、早くも平安時代前期から都市化が進んだ地点であると考えられる。出土遺物をみても、平安時代後期から江戸時代を通じて輸入陶磁器や茶器などが多く出土しており、その遺物の所有者を考える上で重要な資料となっている。しかしながら、この周辺での調査例は未だ乏しく、その実体を明らかにするためには、今後も周辺での継続した調査が必要である。

付表1 土器類一覧表

番号	器種	器形	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土色調	備考
1	弥生土器	壺	土取穴151			7.5YR8/3浅黄橙色	混入
2	土師器	皿A	土坑135	17.8		10YR7/3にぶい黄橙色	
3	土師器	杯B	土坑221	16.8		10YR7/4にぶい黄橙色	
4	緑釉陶器	椀	土坑221	15.5		10YR8/2灰白色	
5	緑釉陶器	香炉	落ち込み302			5Y8/1灰白色	
6	須恵器	蓋	溝状遺構310	13.0		N4/灰色	
7	灰釉陶器	皿	溝状遺構310	8.8		5Y7/1灰白色	
8	須恵器	鉢	溝状遺構310	23.4		N6/灰色	
9	須恵器	甕	溝状遺構310	30.6		N4/灰色	
10	土師器	高杯	溝状遺構310			5YR8/4淡橙色	
11	土師器	皿N	土坑268	9.1	1.5	7.5YR7/4にぶい橙色	
12	土師器	皿N	土坑268	12.3		10YR6/3にぶい黄橙色	
13	土師器	皿N	土坑268	12.3	2.8	7.5YR6/4にぶい橙色	
14	土師器	皿N	土坑268	15.3		10YR6/3にぶい黄橙色	
15	瓦器	小椀	土坑268	8.5	2.5	2.5Y8/2灰白色	楠葉系
16	山茶椀	小椀	土坑268	8.4	2.6	N6/灰色	東海系
17	山茶椀	小椀	土坑268	8.3	2.5	N7/灰白色	東海系
18	輸入白磁	椀	土坑268	17.0		7.5Y7/2灰白色	
19	輸入白磁	椀	土坑268	16.2	6.3	5Y7/1灰白色	
20	輸入白磁	椀	土坑268	16.7		2.5Y7/2灰黄色	
21	輸入青磁	鉢	土坑268	24.3	6.9	2.5Y8/2灰白色	
22	輸入褐釉陶器	四耳壺	土坑268	11.6		N6/灰色	
23	輸入褐釉陶器	壺	土坑268	12.6		10YR5/1褐灰色	
24	輸入褐釉陶器	壺	土坑268	10.0		2.5Y6/1黄灰色	
25	輸入施釉陶器	壺	土坑268	7.0	26.4	2.5Y7/1灰白色	
26	輸入白磁	四耳壺	土坑268	9.4	24.5	5Y7/1灰白色	
27	輸入施釉陶器	四耳壺	土坑268	17.0		5Y7/1灰白色	
28	輸入黄釉褐彩陶器	盤	土坑268	31.4	8.4	10YR6/1褐白色	
29	輸入黄釉陶器	盤	土坑268	35.8	14.5	5Y7/2灰白色	
30	輸入施釉陶器	鉢	土坑268	22.8		2.5Y6/2灰黄色	
31	輸入焼締陶器	鉢	土坑268	24.2	9.2	2.5YR3/2暗赤褐色	
32	灰釉陶器	短頸壺	土坑268	13.3		2.5Y7/3浅黄色	東海系
33	須恵器	甕	土坑268	27.9		N4/灰色	東播系
34	焼締陶器 常滑	甕	土坑268	21.4		10YR8/2灰白色	
35	焼締陶器 常滑	甕	土坑268	25.2		10YR5/2灰黄褐色	
36	焼締陶器 常滑	甕	土坑268	32.7		7.5YR5/2灰褐色	
37	滑石製品	石鍋	土坑268	21.2			
38	土師器	鉢	土坑268	20.4		10YR7/4にぶい黄橙色	
39	土師器	皿N	地下式倉庫288	8.7	1.4	10YR7/2にぶい黄橙色	
40	土師器	皿N	地下式倉庫288	11.1		10YR7/3にぶい黄橙色	
41	土師器	皿N	地下式倉庫288	11.6		10YR7/4にぶい黄橙色	
42	土師器	皿N	pit180	8.2	1.5	7.5YR7/4にぶい橙色	
43	土師器	皿N	pit180	8.4	1.3	7.5YR7/4にぶい橙色	
44	土師器	皿N	pit180	8.4	1.3	5YR7/4にぶい橙色	
45	土師器	皿N	pit180	8.6	1.6	10YR7/3にぶい黄橙色	
46	土師器	皿N	pit180	12.1	2.3	7.5YR7/4にぶい橙色	
47	土師器	皿N	pit180	12.8	1.8	7.5YR7/4にぶい橙色	
48	土師器	皿N	pit180	13.1	1.9	7.5YR8/3浅黄橙色	
49	土師器	皿N	pit180	13.2	2.6	10YR7/3にぶい黄橙色	
50	土師器	皿N	pit180	13.9	2.8	10YR8/4浅黄橙色	
51	土師器	皿N	溝144	7.8	1.2	10YR8/2灰白色	
52	土師器	皿N	溝144	8.2	1.5	10YR8/4浅黄橙色	
53	土師器	皿N	溝144	8.4	1.7	10YR8/4浅黄橙色	
54	土師器	皿N	溝144	8.5	1.6	10YR8/4浅黄橙色	
55	土師器	皿N	溝144	8.7	1.8	10YR7/4にぶい黄橙色	
56	土師器	皿N	溝144	9.0	1.8	10YR8/3浅黄橙色	
57	土師器	皿N	溝144	9.1	1.8	10YR8/3浅黄橙色	
58	土師器	皿N	溝144	12.1	2.0	7.5YR8/4浅黄橙色	
59	土師器	皿N	溝144	12.2	1.9	7.5YR8/3浅黄橙色	
60	土師器	皿N	溝144	12.5	1.8	7.5YR8/3浅黄橙色	

番号	器種	器形	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土色調	備考
61	土師器	皿N	溝144	12.6	2.3	7.5YR8/4浅黄橙色	
62	土師器	皿N	溝144	12.8	2.1	10YR8/3浅黄橙色	
63	土師器	皿N	溝144	13.0	2.1	10YR8/3浅黄橙色	
64	土師器	皿S	溝144	10.8	3.7	2.5Y8/2灰白色	
65	土師器	皿S	溝144	11.3	3.0	2.5Y8/2灰白色	
66	輸入白磁	椀	溝144			5Y8/1灰白色	
67	輸入白磁	椀	溝144			5Y8/1灰白色	
68	輸入白磁	椀	溝144			N8/灰白色	
69	輸入青磁	椀	溝144			2.5Y8/3淡黄色	
70	輸入青磁	椀	溝144			2.5Y7/2灰黄色	
71	焼締陶器 常滑	甕	溝144			10YR5/2灰黄褐色	
72	土師器	皿Sc	土取穴211	6.4	1.3	10YR8/2灰白色	
73	土師器	皿N	土取穴211	8.4	1.4	7.5YR7/4にぶい橙色	
74	土師器	皿N	土取穴211	12.6	2.0	5YR7/6橙色	
75	土師器	皿N	土取穴211	13.0	2.0	7.5YR8/4浅黄橙色	
76	土師器	皿N	土取穴211	8.8	1.6	2.5Y8/2灰白色	
77	土師器	皿S	土取穴211	10.3	3.2	10YR8/2灰白色	
78	土師器	皿S	土取穴211	13.2	3.1	2.5Y8/2灰白色	
79	白色土器	皿	土取穴211	6.5	2.0	10YR8/2灰白色	
80	瓦器	椀	土取穴211	10.8	3.2	N3/暗灰色	楠葉系
81	瓦器	椀	土取穴211	11.5		N6/灰色	楠葉系
82	輸入青磁	皿	土取穴211	10.1	2.3	2.5Y8/2灰白色	
83	輸入青磁	椀	土取穴211			N7/灰白色	
84	輸入白磁	皿	土取穴211	10.2	1.8	10YR8/3浅黄橙色	
85	輸入白磁	四耳壺	土取穴211			N6/灰色	
86	輸入緑釉陶器	盤	土取穴211	30.0		7.5YR8/3浅黄橙色	
87	瓦器	羽釜	土取穴211	18.1		N4/灰色	楠葉系
88	瓦器	鍋	土取穴211	28.2		N6/灰色	楠葉系
89	土師器	羽釜	土取穴211	20.1		7.5YR6/4にぶい橙色	大和系
90	土師器	羽釜	土取穴211	23.4		7.5YR8/4浅黄橙色	大和系
91	滑石製品	石鍋	土取穴211	24.4			
92	須恵器	甕	土取穴211	29.6		5B2/1青黑色	
93	土師器	皿N	土取穴255	8.1	1.2	10YR8/3浅黄色	
94	土師器	皿N	土取穴255	8.6	1.7	10YR8/2灰白色	
95	土師器	皿N	土取穴255	12.4	1.6	5YR7/6橙色	
96	土師器	皿N	土取穴255	12.6	2.8	10YR5/2灰黄褐色	
97	土師器	皿S	土取穴255	7.5	2.3	10YR8/2灰白色	
98	土師器	皿S	土取穴255	10.2	2.8	10YR8/2灰白色	
99	土師器	皿S	土取穴255	12.6	3.3	10YR8/2灰白色	
100	土師器	鉢	土取穴255	14.7	5.3	2.5Y7/2灰黄色	
101	山茶椀	小椀	土取穴255	6.2	2.1	5Y6/1灰色	東海系
102	輸入白磁	皿	土取穴255	10.0	2.1	10Y8/1灰白色	
103	輸入黄釉鉄彩	盤	土取穴255	33.3	9.6	10YR7/3にぶい黄橙色	
104	輸入黄釉鉄彩	盤	土取穴255	32.6		7.5YR6/3にぶい褐色	
105	瓦器	羽釜	土取穴255	4.3		7.5YR7/6橙色	
106	土師器	皿Sh	土取穴151	7.0	1.9	7.5YR8/3浅黄橙色	
107	土師器	皿Sh	土取穴151	7.1	1.9	7.5YR8/4浅黄橙色	
108	土師器	皿Sh	土取穴151	7.2	1.8	7.5YR8/4浅黄橙色	
109	土師器	皿Sh	土取穴151	7.2	1.8	7.5YR8/4浅黄橙色	
110	土師器	皿S	土取穴151	8.9	1.9	7.5YR8/3浅黄橙色	
111	土師器	皿S	土取穴151	9.2	1.5	7.5YR8/3浅黄橙色	
112	土師器	皿S	土取穴151	9.5	2.1	7.5YR8/3浅黄橙色	
113	土師器	皿S	土取穴151	12.4	2.9	10YR8/2灰白色	
114	施釉陶器 瀬戸美濃	天目椀	土取穴151			10YR7/2にぶい黄橙色	
115	輸入施釉陶器	天目椀	土取穴151	11.0		2.5Y5/1黄灰色	
116	輸入施釉陶器	天目椀	土取穴151			2.5Y6/1黄灰色	禾目天目
117	輸入施釉陶器	茶入	土取穴151			10YR5/1褐灰色	
118	輸入施釉陶器	茶入	土取穴151			2.5Y5/2暗灰黄色	
119	施釉陶器 瀬戸美濃	小壺	土取穴151	2.3	2.9	10YR7/2にぶい黄橙色	
120	輸入白磁	皿	土取穴151			2.5Y8/1灰白色	

番号	器種	器形	遺構名	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土色調	備考
121	輸入青磁	皿	土取穴151	12.5	3.5	N7/灰白色	13~14世紀
122	施釉陶器 瀬戸美濃	香炉	土取穴151	12.6		10YR7/2にぶい黄橙色	
123	施釉陶器 瀬戸美濃	燭台杯部	土取穴151			10YR7/2にぶい黄橙色	
124	施釉陶器 瀬戸美濃	燭台脚部	土取穴151			10YR7/2にぶい黄橙色	
125	焼締陶器 常滑	甕	土取穴151			2.5YR2/2極暗赤褐色	
126	焼締陶器 常滑	甕	土取穴151	13.9		N7/灰白色	
127	輸入焼締陶器	壺	土取穴151	14.2		10YR7/1灰白色	茶壺
128	瓦器	風炉	土取穴151	18.2		7.5YR7/4にぶい橙色	大和系
129	土師器	皿Sh	堀78	6.8	1.4	10YR8/3浅黄橙色	
130	土師器	皿Sh	堀78	6.7	2.0	10YR8/3浅黄橙色	
131	土師器	皿Sh	堀78	7.2	2.0	7.5YR8/2灰白色	
132	土師器	皿N	堀78	9.2	1.9	10YR7/3にぶい黄橙色	
133	土師器	皿N	堀78	9.0	1.7	10YR8/4浅黄橙色	
134	土師器	皿S	堀78	12.2	2.8	10YR8/2灰白色	
135	輸入青白磁	香炉	堀78			5Y8/1灰白色	
136	焼締陶器 常滑	甕	堀78	50.0		N4/灰色	
137	土師器	皿S	集石168	9.4	1.6	2.5Y8/2灰白色	
138	土師器	皿S	集石168	9.4	1.2	10YR7/3にぶい黄橙色	
139	土師器	皿S	集石168	10.6	1.8	10YR8/2灰白色	
140	土師器	皿S	集石168	13.4	2.2	10YR8/3浅黄橙色	
141	土師器	皿S	集石168	13.5	2.2	10YR8/2灰白色	
142	土師器	皿S	集石168	15.6	2.4	10YR8/3浅黄橙色	
143	土師器	皿S	土坑222	9.6	2.1	7.5YR7/4にぶい橙色	
144	土師器	皿S	土坑222	10.6	2.3	7.5YR7/4にぶい橙色	
145	土師器	皿S	土坑222	10.8	2.3	7.5YR7/6橙色	
146	土師器	皿S	土坑222	11.0	2.2	7.5YR7/4にぶい橙色	
147	施釉陶器 唐津	皿	土坑222	11.8	3.0	5YR6/3にぶい橙色	
148	施釉陶器 唐津	皿	土坑222	12.8	3.1	5Y6/1灰色	
149	施釉陶器 唐津	椀	土坑222	9.6	7.1	7.5YR8/1灰白色	
150	施釉陶器 唐津	小杯	土坑222	8.1	3.9	10Y6/4にぶい黄橙色	
151	施釉陶器 志野織部	向付	土坑222	13.6	4.5	5Y8/2灰白色	
152	輸入染付	皿	土坑222			N8/灰白色	
153	輸入焼締陶器	壺	土坑222	12.6	32.0	7.5R4/2灰赤色	南蛮切溜花入
154	土師器	皿S	土坑25	9.8	1.8	7.5YR8/4浅黄橙色	
155	土師器	皿S	土坑25	10.4		7.5YR7/4にぶい橙色	
156	土師器	皿S	土坑25	10.8		7.5YR8/4浅黄橙色	
157	土師器	皿S	土坑25	12.2	2.0	7.5YR7/4にぶい橙色	
158	伊万里染付	椀	土坑25	10.8	6.1	N8/灰白色	
159	施釉陶器 京焼系	筒形椀	土坑25	7.8	5.5	7.5Y7/2灰白色	
160	土師器	皿Nr	土坑164	7.0		10YR8/4浅黄橙色	
161	土師器	皿Sb	土坑164	9.3	1.5	10YR8/6黄橙色	
162	土師器	皿S	土坑164	10.2	1.7	10YR8/6黄橙色	
163	土師器	皿S	土坑164	10.7	1.7	10YR8/6黄橙色	
164	土師器	皿S	土坑164	10.8	1.8	7.5YR8/4浅黄橙色	
165	土師器	皿S	土坑164	10.8	2.1	5YR7/6橙色	
166	土師器	皿S	土坑164	11.3	1.8	7.5YR8/4浅黄橙色	
167	土師器	皿S	土坑164	12.0	2.1	7.5YR8/4浅黄橙色	
168	土師器	皿S	土坑164	12.4	2.0	10YR8/4浅黄橙色	
169	伊万里染付	椀	土坑164	10.0	5.6	N8/灰白色	
170	伊万里染付	椀	土坑164	10.5	6.3	N8/灰白色	
171	施釉陶器	灯明皿	土坑164	13.2	3.4	2.5Y7/2灰黄色	
172	施釉陶器	灯明皿	土坑164	12.0	2.7	5YR4/3にぶい赤褐色	
173	施釉陶器 唐津	皿	土坑164	3.2	3.4	10YR8/6浅黄橙色	
174	施釉陶器	鬘水入	土坑164	12.5	2.4	5YR4/2灰褐色	
175	土師器	火消壺蓋	土坑164	25.8	3.0	10YR7/3にぶい黄橙色	
176	土師器	火消壺	土坑164			10YR7/3にぶい黄橙色	
177	土師器	焙烙鍋	土坑164	30.8		10YR7/3にぶい黄橙色	

付表2 瓦類・その他の遺物一覧表

瓦

番号	種類	文様	横幅 (cm)	高さ (cm)	瓦当・厚 (cm)	胎土色調	遺構名	備考
178	軒平瓦	均整唐草文	14.4	4.2	3.2	灰白色	堀78	
179	丸瓦		24.4		1.8	灰白色	土坑268	
180	平瓦		6.2		1.4	灰白色	土坑268	

埴

番号	種類	長さ (cm)	厚さ (cm)	胎土色調	遺構名	遺構年代	備考
181	埴	(10.4)	4.1	灰白色	土坑249	京都市期中	
182	埴	(12.6)	4.2	灰白色	土坑249	京都市期中	
183	埴	(13.2)	4.0	灰白色	土坑249	京都市期中	
184	埴	(9.2)	2.8	灰白色	土坑249	京都市期中	

石製品

番号	種類	法量 (cm)	材質	遺構名	遺構年代	備考
185	紡錘車	径5.2	滑石	ピット269	京都市VI期中～新	
186	玉石	径4.1	砂岩	土取穴255	京都市VI期新	
187	硯		頁岩～粘板岩	土取穴151	京都市期中	
188	硯		頁岩～粘板岩	土取穴151	京都市期中	
189	硯		頁岩～粘板岩	土取穴151	京都市期中	

角製品

番号	種類	径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	遺構名	遺構年代	備考
190	茶入蓋	2.2	0.2～0.3	1.197	土取穴151	京都市期中	

木製品

番号	種類	器形	法量 (cm)	遺構名	遺構年代	備考
191	漆器	椀	高台径7.6	土坑222	京都市XI期新	

銭貨

番号	種類	初鑄年	外径 (cm)	穿孔径 (cm)	重量 (g)	年号	遺構名	遺構年代
192	天聖元寶	1023年	2.45	0.55	2.725	北宋 天聖元年	堀78	京都市期中
193	景祐元寶	1034年	2.55	0.60	1.822	北宋 景祐元年	堀78	京都市期中
194	至和通寶	1054年	2.45	0.65	3.033	北宋 至和元年	堀78	京都市期中
195	嘉祐元寶	1056年	2.35	0.60	2.791	北宋 嘉祐元年	堀78	京都市期中
196	元豊通寶	1078年	2.50	0.65	3.385	北宋 元豊元年	堀78	京都市期中
197	元豊通寶	1078年	2.50	0.65	2.612	北宋 元豊元年	堀78	京都市期中
198	元符通寶	1098年	2.45	0.60	3.796	北宋 元符元年	堀78	京都市期中
199	聖宋元寶	1101年	2.45	0.65	1.600	北宋 聖宋元年	土坑222	京都市XI期新

版 图

報 告 書 抄 録

ふりがな	かみぎょういせき							
書名	上京遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2011-2							
編著者名	小松武彦							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2011年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみぎょういせき 上京遺跡	きょうとうしのかみぎょうく 京都市上京区 もとせいげんじじょうおおみや 元誓願寺通大宮 ひがしいまでらいまちよる 東入寺今町513	26100	224	35度 01分 43秒	135度 44分 59秒	2011年4月 25日～2011 年6月22日	300㎡	共同住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
上京遺跡	都城跡	平安時代	土坑、溝状遺構、 落込み、ピット	土師器、須恵器、緑釉 陶器、灰釉陶器、瓦				
		鎌倉時代	地下式倉庫、土坑、 溝、ピット、土取 穴	土師器、須恵器、瓦器、 焼締陶器、国産陶磁器、 輸入陶磁器、瓦、石製 品、銭貨				
		室町時代	堀、土坑、集石、 ピット、井戸、土 取穴、集石、溝	土師器、瓦器、焼締陶 器、国産陶磁器、輸入 陶磁器、瓦、埴、角製 品、銭貨				
		江戸時代	井戸、集石、土坑、 ピット	土師器、瓦器、国産陶 磁器、木製品、銭貨				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-2
上 京 遺 跡

発行日 2011年9月30日

編 集
発 行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住 所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1
〒 602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印 刷 三星商事印刷株式会社

住 所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地
〒 604-0093 TEL 075-256-0961